

大特集 キャンパスに眠る「お宝」から 読み解くICUの歴史

ICUキャンパスは実はお宝の山だった!? 敷地内には、旧石器時代~縄文時代後期までの2万7千年以上にわたる遺跡が埋蔵されており、石器、土器、装身具などが発掘され、湯浅八郎記念館に展示されている。また、2017年11月には、戦前の航空機メーカー「中島飛行機」が開発したジェットエンジンの排気ノズルと推定される部品が見つかり、公開されたことがニュースとなった。この特集では、そうしたキャンパス内に残された「お宝」からICUの歴史を綴っていく。まずは発見されたジェットエンジン部品や本館の建築から歴史をたどる—。

お宝物語①

中島飛行機、ヴォーリズ、そして ディッフェンドルファー。 私たちに遺してくれた「大切なもの」とは?

文:岸佑(47 ID03/G2005 ICUアジア文化研究所助手) 写真:国際基督教大学歴史資料室 提供

はじめに

「One man's trash is another man's treasure」ということわざがある。「ある人にとってはガラクタでも他の人にはお宝になる」。そのような「お宝」の存在が、2016年から2017年にかけて、相次いでICUで発見・(再)認識された。まずは順番に記そう。

2016年3月、文化庁文化財建造物担当調査官を含む日本建築学会関東支部の専門委員が、大学本館、ICU教会、ディッフェンドルファー記念館東棟などを見学し、その文化的・歴史的価値について大学に報告した。10月には、アジア文化研究所がシンポジウム「ヴォーリズの夢:平和と大学」を開催し、ICU献学の理念とキャンパス空間との関係が議論された。初めてICUを訪れた建築関係者も多く来場し、図書館や泰山荘を除きほとんど知られていなかったICUキャンパス内の建築について見学ツアー開催の要望も提出された。2017年5月には、DOCOMOMO Japanが、2016年度「日本に

おけるモダン・ムーブメントの建築」に、ディッフェンドルファー記念館東棟を選定した。 DOCOMOMO Japanは、近代建築運動について調査研究を行っている国際学術組織 DOCOMOMOの日本支部で、建築関係者のみならず都市計画家、行政関係者、建築に関心のある一般市民など多様な人たちが会員としてその活動を支えている。

同じ5月には、一般財団法人日本航空協会の関係者が、ICU高校の高柳昌久教諭の依頼を受けてジェットエンジン部品と思われる資料の調査を実施した。ジェットエンジン部品は、その後同年7月から10月まで、国立文化財機構東京文化財研究所でより詳細な調査が行なわれ、後述する報道につながった。ヴォーリズ、ディッフェンドルファー、中島飛行機といういずれもICUの歴史に欠くことのできない3つの事項にまつわるモノによって、ICUの名前は学外から注目を浴びてきた一方で、そのきっかけは、ICUにいた人ならば当たり前に接してきたため、なぜそれが「お宝」に?と思われてしまうよう

なものだったのも事実である。

それ<mark>では、ど</mark>ういうところが「お宝」なのか。

発見された幻の「お宝」

ジェットエンジンの部品については、11月 11日付の毎日新聞がこれについて最初に報じ た後、マスコミ各社も同様の内容を報じた。そ のため、このニュースを目にした方も多いだろ う。正確な出土地点は不明であるものの、ICU キャンパス保全に従事する会社の社長宅の軒先 に置かれていたもので、1950年代にICU構内 から出土したものとの口承があり、約20年ほ ど前からICU構内の資材置き場に移されていた。 社長宅では、これが「富嶽」の部品だと伝わっ ていたという。「富嶽」は、中島飛行機が第二 次世界大戦末期に計画した超大型戦略爆撃機で、 太平洋を横断してアメリカ本土空襲を行った後、 ヨーロッパまで飛行するという壮大な計画だっ た。だが今回の調査の結果、この部品は「富 嶽」ではなく、「火龍」に搭載予定であったジ ェットエンジンの部品「ネ230」の可能性が高

いことが判明した。「火龍」は、米軍爆撃機 B-29を迎撃するため旧陸軍が計画した戦闘機 で、エンジンを試験運転しただけで設計段階の まま終戦を迎えたという。

実は最初、この部品は航空ジャーナリストの間でも戦前の航空機用のものと認定されなかった。高柳氏が送った写真をみた彼らは、戦前のエンジンなら鉄製で、埋められていたなら激しく腐食しているはずだと思い込んでいたようなのだ。確かに写真では、この部品にほとんど錆はないように見えた。しかし高柳氏は、米国戦略爆撃調査団の中島飛行機三鷹研究所についての報告書を参照し、防衛庁所蔵資料にある戦前の日本の複数の試作のジェットエンジン図面と比較検討し、この部品が「ネ230」だという推測を強めていた。

事態が大きく展開したのは、高柳氏から連絡を受けた日本航空協会の関係者が、とにかく実物を一度見てみようとICUを訪れた5月のことである。その中に、日本航空協会の評議員を務める藤原洋氏がいた。藤原氏は、御巣鷹の日航



機墜落事故当時、運輸省航空事故調査委員会の 調査官として事故発生直後から現場責任者を務 めた人物としても知られる。藤原氏は、実物を 見てすぐに、これが間違いなく日本製のジェッ トエンジンだと述べた。

その後の調査も踏まえ、これがジェットエン ジンの部品と判断されたのは、次のような点か らであった。発見されたモノに、戦時中に生産 された他の日本の航空機部品でも確認されてい る製造時の刻印と類似する刻印があった。腐食 が少なかったのは材質がステンレスだからであ り、極めて耐熱性が高いことからジェットエン ジンの素材として相応しいこと、形状や構造な どから高温高圧の噴流が通るジェットエンジン の排気ノズルだと断定できる。そして、発見場 所がICU構内であったということから、このジ ェットエンジンは中島飛行機が試作製造した 「ネ230」の可能性が高い、と判断された。 ICUキャンパスは中島飛行機三鷹研究所の敷地 を第二次世界大戦後に引き継いでいるからであ る。

その日に知ったことだが、藤原氏は1945年8月17日に、中島飛行機三鷹研究所へ来たことがあった。部外者であるにも関わらず、敗戦の混乱の中で全く咎められることなく敷地内に堂々と入構し、本館や格納庫のなかで新鋭機の模型などを見たという。藤原氏が三鷹の地を訪れたのは、それ以来、実に72年ぶりだった。筆者は撮影をしながら、現在と歴史が交差する瞬間を目の当たりに、鳥肌が立ったことを覚えている。

第二次世界大戦中にジェット機による飛行を成功させたのは、日本のほか、ドイツ、イタリア、イギリス、アメリカのみであった。この部品は、当時の日本の技術力の高さと先進性を示す一方、つくりの荒さが敗戦直前の日本の状況を今に伝える。加えて、開発されたジェットエンジンのうち、国内に現存しているものは数えるほどしかなく、展示されているものもほとんどない。そのため、今回の部品が一般公開されれば、多くの航空ファンが全国から見学に訪れるだろう。ICUをアピールする大きな契機にもなる。将来的には、構内のしかるべき施設に、恒常的に展示されることが望ましいだろう。

ICUのその前と これからをつなぐ「お宝」

キャンパスがかつて中島飛行機三鷹研究所であったことを今に伝えるものは、今回確認されたジェットエンジン部品の他に、マクリーン通り(実際には滑走路ではなく、桜並木も戦後に植えられた)や、試作機を調布飛行場へ向かわせる誘導路の一部だったICU教会前のロータリ

ーなど、わずかしか残っていない。構内にある 防空壕も詳細な全容調査が行われないまま、そ の場所すら忘れ去られつつある。そのなかで大 学本館は、中島飛行機とICUをつなげる重要な ランドマークだ。

大学本館は、かつて三鷹研究所設計本館と呼ばれ、「富嶽」のエンジン、「キ87」、「剣」といった飛行機の設計開発が行われていた場所である。本館の地鎮祭が行われたのは、真珠湾攻撃が行われた1941 (昭和16)年12月8日。太平洋戦争開戦とともに本館の工事が始まった。2011年には、本館建設70周年を記念して、正面車寄せの柱にプレートが埋め込まれたことも記憶に新しい。当時は3階建て鉄筋コンクリート造の建物で、屋上には機銃台が設置されていた。この機銃台は、現在でも4階の部屋から見ることができる。そのほか、階段教室を作れるほどの天井の高さや、自然光を取り入れやすいように高く作られた窓など、今でも内部空間に設計本館の頃の面影は残っている。

本館が現在のような4階建ての姿に改修されたのは、戦後にICUがこの敷地を購入した後だ。 改修を担当したのは近江八幡のヴォーリズ建築 事務所、構造設計を担当したのは東京タワーなどの設計で知られる内藤多仲。

ヴォーリズ建築事務所は、キリスト教の宣教のために来日したウィリアム・メレル・ヴォーリズが始めた建築設計事務所で、明治学院や関西学院、神戸女学院などキリスト教系の学校を数多く手がけたことでも知られる。1949年の御殿場会議でヴォーリズがICUの初代顧問建築家に就任した時、彼は69歳。「自らのこれまでの経験はこのICUのために神が与えたものだった」と涙ながらに述べ、与えられた使命に深く感謝したという。

ヴォーリズが、本館に行った大きなデザイン変更は主に2点。中央に4階部分を増築することで建物に正面性を与えたこと、東西両端の窓を小さくすることにより、正面から見た時の建物の輪郭を明確にしたことである。そして、仕切り壁を増やして廊下をつくったことで、本館は現在の姿になった。

しかし、本館のもつ価値とは、中島飛行機三鷹研究所設計本館という日本近現代史上の重要性や、メレル・ヴォーリズという名前がもつ建築史上の価値だけではない。三鷹研究所設計本館が大学本館へ転生し、修繕しながら80年近く使い続けられているということこそが、現代日本における新たな価値を本館に与えるのだ。

元の建物を残しながら再利用・転用するという「リノベーション(再利用)」は、最近よく耳にするようになった言葉のひとつである。加藤耕一『時がつくる建築』(東京大学出版会2017



献学したころ

年)が述べるように、「再利用」こそ西洋古代世界から続く本質的な建築行為のひとつであった。経済性が最優先される「再開発」も、倫理性が強調される「文化財」も、人口爆発や都市のスプロールといった、成長に基づき「更地から考える」前提を共有する。一方、「既存建物」を思考の出発点とする「再利用」は、少子高齢化、地方・郊外の空洞化といった成熟した現在にこそ、古くて新しい考えを提示する。つまり本館は、この「リノベーション(再利用)」を推し進めた先駆的事例として、「明日の大学」を標榜するICUのこれからを象徴する建物になる可能性をもっている。

ICUの学生をつなぐ「お宝」

本館がICUの開学前後を繋ぎ、あるいは、これからのICUを象徴する建物になりうるなら、これまでのICUを象徴する建物は、ディッフェンドルファー記念館東棟(旧D館)ではないだろうか。ディッフェンドルファー記念館は、地上3階地下1階の鉄筋コンクリート造の建物で、1958年にヴォーリズ建築事務所の設計によって竣工した。

2016年10月に行ったシンポジウムでは、東京工業大学の山崎鯛介氏が、ICUが所蔵する図面や資料を用いて、ICU教会とD館東棟を中心とした初期キャンパスプランの存在を紹介し、D館東棟のデザインはICU教会・大学本館・芝生の関係性がなければ成り立たないこと、現在の平面プランは設計事務所・大学行政・学生会の3者による民主的なプロセスを経て決定されていたことを指摘した。このプロセスによる平面プランの変更は、例えば、北側正面ファサードが左右対称にもかかわらず、ファサード西側ガラス開口部が機能的に無意味になっている点に現れている。

当初の計画案では、オーディトリアムが建物の中心に置かれ、その周囲を取り囲むように1階と2階にサークル部室が配置されていた。バカ山から見える屛風のような湾曲部は、オーデ

ィトリアムのステージ幅と一致するよう設計されていたのである。しかし、交流の場としてのラウンジが欲しい、オーディトリアムに向かう動線と部室の動線を分けたい、という学生会の提案に基づき平面プランが変更され、現在のような形になった。

そもそも学生会館という建物自体、戦後の日 本に初めて建てられたタイプで、教室とも寮と も違う学生生活の中心を旧D館が担った。D館 は、戦後民主主義の教育がもたらす学生生活の 理想が空間的に示された建物といえるかもしれ ない。1949年の最初の計画からキャンパス全 体の要の位置に計画されていた理由もそこにあ ると思われる。かつての大学食堂は、旧D館と つながる予定であり、食堂の周囲に男子寮と女 子寮が集まっていたことにも、献学の理想を踏 まえたヴォーリズの明確な意図があった。ここ で詳細を述べることは字数の関係上できないが、 2018年春に勉誠出版から出版が予定されてい る本の中では、そのような内容も含め、ICUと ヴォーリズに関する論考が掲載される予定であ る。

おわりに

アジア文化研究所では、今回見つかったジェットエンジンと中島飛行機三鷹研究所に関する公開シンポジウムを、6月2日(土)に企画している。これは、ジェットエンジン調査を担った東京文化財研究所、日本航空協会と共催するもので、ディッフェンドルファー記念館東棟を会場に、卒業生で芥川賞作家の奥泉光氏、日本近現代史を専門とする加藤陽子氏(東京大学)を招く予定となっている。卒業後にキャンパスを再訪する機会をなかなか作れない卒業生も多いだろう。かつて大勢の卒業生が見続けてきた景観は、この10年で全く見慣れないものになる可能性もある。このシンポジウムを機会に、ぜひ新緑のICUキャンパスを再訪して欲しい。

生要学者資料
[12月8日をおれいで] 国際基督教大学アジア文化研究所、2011年 / 権格発一部 [ICU1キャンパス物館 (全14回) [Icunmi News (Vol.106 ~ 119)] [IcUng窓全 / 加速財一 時かつくる連築」 東京大学出版会。2017年 / 高線日久 [中島所下標三 庭前元所 | 海水入野江原公 (2015年 / 高線日久 [Icung | Icung |



2000年前後までの卒業生は覚えておられるだろう。小さなテーブルがついた堅固な木製の「タブレット」椅子。

2017年に実施されたピースベル奨学金(PBS)10周年と同窓会のPBS支部発足を記念した寄付キャンペーンで、募金の応募者へのプレゼントとして紹介され、 大学が保管していた最後の80脚が、卒業生などの手元で「第二の人(椅子)生 | をスタートした。しかし、いくつかの偶然と関係者の粘りがなければ、 大学発足時前後に制作され、それから50年あまりの歳月を経て使命を終えていた椅子たちは、今はただの産業廃棄物になっていたかもしれない。 文:新村敏雄(本誌)

それは、大学の一理事が感じた「引っかか り」から始まった。

2017年6月、財務・基金担当常務理事の新 井亮一(32 ID88) は、管財グループから「昔教 室で使っていた木製のタブレット椅子がまだ倉 庫にあるんですけど、廃棄しますか?」と打診 された。アラムナイハウスの裏手に3棟ある倉 庫は老朽化のため一部を建て替える計画で、そ れを機にそこに保管されていた椅子も処分が検 討されていた。



▲椅子が保管されていた倉庫(新村敏雄 撮影)

新井はその1年前、湯浅八郎記念館に展示さ な」と感じたことを思い出した。「捨てるのも って、同窓会募金部副会長の長谷川攝(24 ID80) に「募金で活用できないか検討を」と依 頼した。

長谷川はさっそく大学の理事会、卒業生のリ ユニオン、レストランを経営する卒業生などに ヒアリングを始めた。自宅や別荘に置いてみた い、という声はぽつぽつとあったし、「アフリ カや東ティモールなど海外へ打診してみる」 「同窓生向けオークションを開催しては?」な ど、いくつかアイデアももらえた。

しかし、なかなか80脚全部を「消化」する良 い方法が見つからない。頑丈な分、重量は10 キロもあり、縦横高さが73×51×85センチ、 折りたたむことも当然できない。送ったら通常 の宅配料金は適用されず家財扱いになるため、 関東エリアでも送料は7,500円ほどかかる。あ る集まりで話を持ち出したときに「そんな大き くて重い物は要らないわよ」という反応が返っ てきたのも、無理からぬことではあった。

新井も、倉庫から自分のオフィスに運び込ま れた2脚のタブレット椅子を前に、打開策を考 えていた。アンティークと呼べるかはともかく、 販売するには大学が古物商の免許を持っていな くてはならない。仮に売れたとしても、売り上 げは「事業収入」になり課税される。

そんな中、同窓会で、6月に「Peace Bell Scholar支部 の発足が決まった。「奨学金も スタートから10年。支部発足と合わせた記念 のご寄付を募集し、応募いただいた方への返礼 として椅子をプレゼントしたら?」というアイ デアが出てきた。どんな反応がくるか見当もつ かなかったが、椅子の利用案としては最善に思 え、同窓会理事会からもOKを得られた。

そこからは時間との戦いになった。寄付の金 額、キャンペーンを「知らなかった」という人 が出ない告知の方法、申し込み受付の方法、受 付の期日などをバタバタと決めていく。もっと も確実な告知手段と期待したアラムナイ・ ースへの掲載は、タッチの差で間に合わなかっ 惜しい。何かに使えないだろうか」。7月に入 たが、10月に開催が決まっていた「D館まつ り」を案内するチラシの裏面があいていること け取っていただいて結構です」と言ってくれた を聞き、そこを拝借することになった。「写真 入れなきゃ!」と夏休み真っ最中の8月、椅子 を炎天下のバカ山まで運んで大汗をかきながら アドヴァンスメント・オフィス職員が撮影(4 ページ上の写真)。写真はチラシのほかJICUF のFacebookにも掲載された。受付は10月1 日朝から。お膳立ては整った。

> しかし、新井も長谷川も、全面的なサポート を提供したアドヴァンスメント・オフィスも、 不安だった。熟慮の末決めた最低寄付額2万円 は、高く感じられないだろうか、何より「大き くて重い」のがネックにならないだろうか、と。 チラシには「椅子がなくなり次第キャンペーン は終了します」としたが、なくなるほど応募が あるか見当もつかなかった新井は「出だしはゆ

っくりかな」と思っていた。

10月1日。同窓生の千葉紳吾(27 ID83) は、 9月2日に地元高松市で開かれた同窓会香川支 部・徳島支部交流会に参加した木越純同窓会長 から勧められ、日曜日にもかかわらず早朝から パソコンを立ち上げて申し込んだ。特に思うと ころがあったわけではないが、なんとなく朝一 番で動いた。それで正解だった。新井や長谷川 の懸念を裏切って、80脚のタブレット椅子は 申し込み受付開始翌日の10月2日昼ごろにはす べて引き取り手が決まってしまった。「瞬間蒸 発」と言って良いかもしれない。キャンペーン の広報に気がつかず、同期などがFacebook にアップした椅子の写真で初めて知り、「出遅 れた」と悔やんだ卒業生も少なからずいた。

キャンペーン終了は、事前に告知した通り、 同窓会とFriends of ICUのウェブサイトでお 知らせしたが、送金方法などによっては不可抗 力の時間差が生じ、結果として不運にも間に合 わなかった方も出てしまった。80脚は多いど ころか足りなかったのである。大学側は寄付を 申し込んだが椅子は受け取れないことになった 卒業生に1件ずつお詫びと状況の説明をしてい った。なかには、「いや、それなら寄付だけ受 申し込み者もいたという。

アドヴァンスメント・オフィスがまとめた応 募者の属性もちょっと興味深い結果が出た(表

		人数	構成比
寄付歴	ほぼ初めて	46	56%
卒業期	1-9期	2	2%
	10-19期	4	5%
	20-29期	12	14%
	30-39期	17	20%
	40-49期	23	28%
	50期以降	4	5%
	大学院	1	1%
	保証人など	18	22%

(アドヴァンスメント・オフィスまとめ)

卒業から比較的日が浅い期からの申し込み件 数が、もっと以前に卒業した期より多いし、 「寄付は初めて」という方が半数を超えている。 椅子の引き取り手となられた何人かの方々の思 いを、写真とともにご紹介したい(写真は本人



◀八尾 勝 (24 ID80)

「タブレット椅子が手 に入るらしい」。記憶 の淵に沈みこんでいた 青春が、そのニュース でにわかに身近によみ がえってきた。無事に 入手。持ち主同様、多 少ガタは来ているが、

気持ちも若返り、なんだか勉強にも集中できそ うな気分になっています。



◀千葉紳吾 (27 ID83)

入試当日(場所は図 書館)が椅子とのファ ーストコンタクト。 「変わった大学は椅子 も変わっているなあ」 と思った。あらためて 手元にきてみると思っ たより大きく重い。当

面廊下のオブジェです。



◀有吉由香 (40 ID96)

ICU卒の友人のFB で、寄付をするとあの 懐かしい椅子が贈られ ると知り、迷わず申し 込みました。とりあえ ずリビングに置きまし たが、ふと椅子に座り 右腕をタブレットにお

いて血圧を計ったらちょうどよい。写真では趣 味で集めているペンギングッズからSuicaの巨 大ペンギンに座っていただきました。

思い出すのはこの硬い椅子でゴロチ(5・6・

7限)の授業を受けていたこと。当時は若くて 体力があったと改めて実感。



▲樋川 淑 (43 ID99)

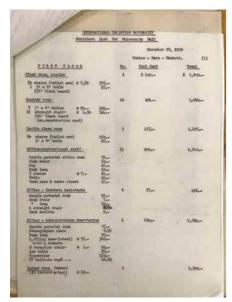
現在、家族でセルフ ビルドの家を建ててお り、椅子の使い込まれ た質感と懐かしさが新 居に合いそうだなと思 いました。2年生の時、 先生を含めて3人とい う5~7限のクラスを

取り、この椅子を3脚突き合わせて、アメリカジェンダー史のテキストを読み込んだことが思い出されます。まずは座面に合うクッションを編み、子どもたちも順番に座りたがるので、最終的には宿題専用席にするつもりです。

椅子はどこから?

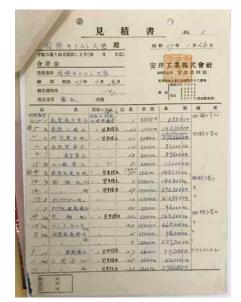
今回のPBSキャンペーンで再び脚光を浴びたタブレット椅子だが、終戦まもない時期にこんなに立派な椅子が日本で一般的に流通していたのだろうか。大学の協力もあおいでリサーチしてみた。

大学の図書館にある歴史資料室に保管されている献学当初のころの資料の中に、1950年の時点で大学とヴォーリズ事務所のヴォーリズ氏が、授業をする教室、食堂、職員の執務室などごとに、必要になる家具や什器とそれぞれの数量をリストアップし、どのくらいの購入コストがかかるか試算したリストがあった。



▲大学とヴォーリズ事務所が想定した家具・什器の一覧

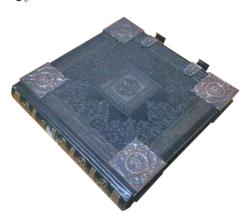
翌1951年の年末、ヴォーリズ事務所に対して「リストにある家具類を納入できる業者を複数紹介してほしい」と依頼、明けて1952年には1品目に対して2社ずつの見積もりがそろった。タブレット椅子(Tablet arm chair)については「Yasui(安井工業)」「Chuo(?)」という2社が選ばれた。そのうち、安井工業が大学に提出した見積書には、「規格・寸法」という欄に、「図面及び別紙仕様書××(判読できず)」という書き込みがある。



▲安井工業が大学に提出した見積書(国際基督教大学歴史 資料宏提供)

そして、見積単価の金額がタブレット椅子に 該当する「教室生徒用机」という項目には、「見 本提出」という書き込みもみえる。

推測だが、ヴォーリズ氏が椅子の仕様を安井工業に伝え、安井工業はそれをもとに「見本」を作ったのではなかろうか。ヴォーリズ建築事務所の東京事務所におたずねしたところ、大阪の本社で保存しているヴォーリズ氏が残したスケッチブックの中に、手書きの椅子のスケッチが見つかった(4ページ右上の写真)。ひとマスを1寸と指定した方眼紙に、几帳面な線で正面、側面、上からみたタブレット椅子が描かれている。



▲W.M.ヴォーリズ氏のスケッチ集(一粒社ヴォーリズ建 築事務所提供)

タブレット部分の形や大きさ、座面との位置 関係は、我々卒業生が知るタブレット椅子のそれとはちょっと異なる。その点については、ヴォーリズ事務所は「このスケッチがICUに納品された椅子のものであるかどうかはわからない」としている。

安井工業はその後閉店しており、最終的に見積もりから受注に至ったかどうかは不明だ。また、安井工業が加盟していた東京都家具工業組合によると、「安井さんはハコもの(タンスなど)を製造されていた」とのことで、椅子が得意だったとは限らない。しかし、タブレット椅子以外にも8品目の見本を作って提出しており、熱意が感じられる。

敗戦から10年も経っていないころ、おそらくは聞いたこともない大学からの、そこそこまとまった金額の注文を、見積書にある「安井雄四郎」さん(当時の同社取締役社長) はどんな思いで対応されたのだろう。

木製タブレット椅子は2000年ごろに教室から姿を消す。後釜には、もう少し大きいタブレット面とお尻にソフトな座面をもつスチール製のタブレット椅子がおさまった。

授業ではいまだに黒板も使われるが、ホワイトボードやプロジェクターの使用も増えた。昔と変わったのは、講師が黒板やホワイトボードに宿題などの連絡事項を書くと、学生はそれをノートに書き写すのではなく、「一斉に写メを撮る」そうだ。そして、タブレット面には紙のノートや教科書に加えて、ノートパソコンやタブレット端末が置かれるようになった。ヴォーリズ氏が見たら、どんな感想を口にするだろうか。(敬称略)



▲今のタブレット椅子 加藤菜穂(本誌)撮影

※この記事をまとめるにあたり、同窓会募金部、大学アドヴァンスメント・オフィス、大学歴史資料室、一粒社ヴォーリズ建築事務所様には資料写真ご提供などで多大なご協力をいただきました。感謝申し上げます。

お宝物語③

My ICU —What I Treasure Most



Dr. Saito was already a legend in my time (1965-69), recognized as the pioneer and doyen of simultaneous interpretation in Japan. She looked the part, too, with her eye-catching mother-of-pearl earrings and Chanel suits. ICU graduates trained by Dr. Saito came to be in great demand for their high professional standards.

conference speeches, wedding greet-

ings and such.

In her Effective Speaking class, we learnt to structure a speech, that is, to



Professor Emeritus Saito (株)コミュニケーターズ提供

introduce the theme, develop, evolve and then conclude(起承転結). We practiced what we learnt, by giving speeches in turn in front of the class. I remember vividly the butterflies fluttering in my stomach, even just speaking in front of other students. With practice, the butterflies have long disappeared; as I progressed in my career, public speaking became increasingly a key part of the positions I held.

Dr. Saito also taught us that communication is not just about linguistic proficiency and techniques, but most importantly, the well-defined message that is to be conveyed across cultural and social boundaries, in a convincing way. You know you are succeeding or not, if you maintain contact with your audience. I am eternally grateful for these pointers I picked up from Dr. Saito

I realize now that Dr. Saito, through her intercultural communication theory and practice, was fulfilling a vital part of ICU's mission.

(Eimi Watanabe, 13)



失われた宝物 — もうひとつの 学びの場「ゴルフ場」

文: 井川俊子(20) 写真: 国際基督教大学歷史資料室 提供

高校時代に始めたゴルフを大学でも続けたいと思っていた頃、ICUの入学案内書を手にとりました。緑が一面に広がるキャンパスと隣接するゴルフ場の写真が目に留まり、入学してそこでプレーしたい気持ちが日に日に強くなりました。ICUゴルフ場で腕を磨くことが志望動機であったことは言うまでもありません。

夢がかない、入学と同時に訪れたゴルフ場は今でも忘れられない美しい、そして素晴らしい光景でした。武蔵野の自然に囲まれ、四季の移り変わりを目で楽しみ、肌で感じ、またキャンパスのすぐ隣という絶好の立地、そこでプレーすることはこの上ない贅沢でした。18ホールのコースは距離も充分にあり、起伏に富み、フェアーウェイを横切るように川が流れるホールがいくつかあり、都心からそう遠くないところに位置しながらも変化に恵まれたチャレンジングな設計でした。

当時は電動カートではなくセルフカートでプレーし、自分の打ったボールまでは一歩一歩、距離を確かめながら歩きました。春には桜を眺めながら、時には小鳥のさえ

ずりに耳を傾け、秋は紅葉を楽しみ、また 冬には落ち葉を踏みしめ寒さに耐えながら のラウンドでした。

ゴルフ場に併設された練習場はたまに講義をさぼって足を運び練習に励んだ思い出の場所です。青空に向かって飛び出していくボールを眺めながらその爽快感に酔い、講義に出席していない罪悪感を忘れさせてしまうほどでした。ゴルフ場でアルバイトをしてはプレーできるクーポンを集めてゴルフをさせていただくのが楽しみで、したがって講義の時間割もゴルフができるように工夫したものです。

ゴルフ場は競技の技術向上をはじめ、ゴルフのマナーはもちろんのこと、ゴルフ部の先輩や後輩から社会人としての礼儀や人間関係について学び、ICUでの講義と並行して多くのことを教わり、私を成長させてくれた場所でした。ゴルフ場は惜しまれながら姿を消してしまいましたが、ICUの関係者をはじめ多くの方々の心の中、そして思い出としてこれからも生き続けていくことでしょう。ICUゴルフ場の思い出は私の青春の1ページであり大事な宝物です。

Think globally, act locally.

"ここ"から始まるストーリー



地域に根ざした小さな組織で、次世代を担う若者を育てる 香川県善通寺市 四国学院大学 学長・末吉高明さん(16)

文:安楽由紀子(本誌) 写真:四国学院大学提供

明るく広々とした芝生の中庭。緑に溶け込み、パイプオルガンの調べが穏やかに響くチャペル。学生数約1200人。どこかICUを彷彿とさせるが、ここは香川県、四国学院大学である。末吉高明さんがこの大学に来て32年、学長となってからもうすぐ15年。きっかけは、ほかならぬICU同窓生がつないだ縁だった。

「ICUでの生活がなければ、その後の僕はない」と語る末吉さん。東京・三鷹市から遠く離れたこの地に、ICUの教えはしっかりと根づいている。

中学2年でICU受験を決意 奈良からミネソタ、東京へ

出身は奈良県。中学2年生のときにたまたまICUの入試問題を目にして、「ここしかない」と早くも志望大学を決めた。受験戦争が熾烈ないわゆる団塊世代にあたる。記憶力を試すだけの入試制度には強い疑問を持っていた

同じころキリスト教とも出会った。高校生のときに洗礼を受けると、「日本を脱出したい、外の世界が見たい」という思いが日に日に強まった。1967年、当時はまだ高校生の留学は珍しい時代だったが、AFS日本協会の奨学生として米国ミネソタ州へ1年間の留学が叶った。

1968年に帰国しICUに入学。のちに学 生運動の本拠地となった第2男子寮に入寮 した。エイプリルフールで女性の先輩に婚 姻届を出されそうになるという"ドッキ リ"を仕掛けられたのはいい思い出だ。

2年上の先輩である、現・部落解放同盟中央執行委員の和田献一さん(14)の影響で、一緒に被差別部落問題やアイヌ民族差別問題、寄せ場の問題などに取り組んだ。「このことがきっかけで、米国の黒人社会に関心を抱くようになり、またキリスト教に対する理解を改めて考え直すことにもなりました。当時、客員教授として招かれていたスイスの世界的な新約学者、ウルリッヒ・ルッツ教授に師事。2年間、新約学を勉強しました」

ルッツ教授のもとで徹底的に聖書を読み 直した末吉さんは、ヨーロッパ人のキリス ト教に対する圧倒的な知識の量と質を目の 当たりにした。そして、自分は研究職より も日本の教育現場が合っているのではない かと考えるようになった。

黒人社会に実際に住み、 キリスト教徒として模索

大学卒業後、故郷・奈良の県立高校の 教員に採用された末吉さんに大きな転機 が訪れた。第2男子寮の先輩で、キング 牧師の公民権運動について研究してい た、現・四国学院大学理事長の山下慶親 さん(14)から、米国ジョージア州・ア トランタの黒人地区にある超教派黒人神 学 校(Interdenominational Theological Center)を紹介されたのだ。

教職についたばかりだったが、末吉さん はその神学校への留学を決意。1975年9 月から1979年3月までの3年半、黒人ばかりの環境に身をおいた。高校時代の留学とは環境も自分の意識もまったく違っていた。「僕が知っていたのはいわゆる白人社会の米国。黒人社会はまったく知らなかった。アトランタで実際に黒人社会に暮らし、同じクリスチャンという身近な存在でありながら、社会のなかで苦悩している人々と接することで、自分はどう生きるべきか模索しました

こんな時代だからこそ 教育でできることがある

次の転機も同窓生がもたらした。アトランタから帰国して大阪で高校教師をしていた末吉さんを、1年上の先輩で、神学者として四国学院大学で教鞭を執っていた、故栗林輝夫さん(15)が四国に呼び寄せたのだ。栗林さんは、学生時代は学生運動の中心的人物。被差別部落問題にも関わっていた。

香川で若者たちを育てていこう。末吉さんがこの地で新たなスタートを切ったのは、1986年のことだ。

「規模が小さい分、現代社会が抱える問題の影響が顕在化しているのが地域社会。少子高齢化、経済成長の行き詰まり、不安定な政治、ポピュリズムの横行……かなりペシミスティックなシナリオを描く識者が多いなか、従来の教育のままでは無理があると思っています。社会を継続させていく若者を育てるために大学教育として何ができるのか。ICUは規模を小さくおさえた教育

を維持していますが、そのあたりは本学の 運営においても共通していますね。規模が 小さいからこそ目が行き渡り、できること がたくさんあるんです」

前述の和田さんがマイノリティの人権に関する特別講義をしたり、平田オリザさん (30 ID86) を客員教授として招き、ドラマ・エデュケーションに力を入れたりと、画期的な試みが注目されている。

「イエスはエルサレム(都会)ではなく、 ガリラヤ(田舎)に住んでいました。エル サレムでは殺されたんです」

中央ではなく地方、大きな組織ではなく 小さな組織、マジョリティではなくマイノ リティ。そこから社会は変わっていく。そ の信念こそ末吉さんがICUで学んだことだ。

「香川」のいいところ

● やっぱりうどんがウマい!

うどん店が700軒以上あります。「う どん県」と県をあげてPRしています が、実際にいろいろと違ったうどんが 味わえます。

● ドライブが楽しめる!

香川の道は整備されていて走りやすい んです。車で行き来したい方は走りや すくて便利なところだと思います。

四国学院大学

香川県善通寺市文京町3-2-1 http://www.sg-u.ac.jp/ 東京・三鷹市にあるICU。そこから数多くの卒業生たちがさまざまな場所へ旅立っていった。

ICUの「I=International」を意識せずとも胸に刻み込んで過ごした大学時代を経て、今、卒業生はどのように生きているのか。 この企画では、国内の"ある場所"で活躍する仲間にスポットを当て、その地で活動を始めた経緯やその地の魅力を聞いた。 そこから見えてくる、"地域にこだわり、地域にとらわれない"生き方とは——?



「本を手に、退屈な日常にあらがおう」 ——本とZINEを扱う書店を開業

群馬県高崎市 「REBEL BOOKS」店主・荻原貴男さん(46 ID02)

文・人物写真: 小林智世(本誌) 店舗写真: REBEL BOOKS提供

JR高崎駅から、歩くこと20分。住宅と商店と寺社が点在する道で「こんなところに本屋があるのか?」と不安になりつつ地図を頼りに左に曲がると、目的地「REBELBOOKS」がそこにあった。街はずれに不意に現れる、白い外壁の洗練された書店。何だか秘密基地のようである。

REBEL BOOKSは、2016年のオープン以来、独自の店舗づくりで存在感を放っている。扱う本は、世間の人気や出版社の規模に関係なく、店主が良書と判断したものだけ。小さな出版社の刊行物や、個人が発行する「ZINE」と呼ばれる冊子もある。カウンターでは飲み物も注文でき、本を買わない人もちょっとお茶やお酒を飲める。1階のミニギャラリーや2階のイベントスペースでは、展覧会やトークイベントなどが定期的に開かれる。こうした取り組みをしている書店は大都市には数あるが、高崎ではここが元祖。ここにしかない本や体験を求める人々が、遠方からも訪れる。

高崎の高校からICUへ 知的刺激に満ちた学生時代

店主の荻原貴男さんは、1998年のICU 入学を期に、地元・高崎を出て第一男子寮 で暮らし始めた。学内で受けた刺激、そし て東京での生活には、本屋開業に繋がる原 体験があった。

「もともと本は好きでしたが、ICUに入って、自分より本を読んでいる人、知的好奇心が旺盛な人がたくさんいることに驚きま

した。高校の頃、本について深く語り合える友達はあまりいませんでしたから。そして都内の個性的な本屋にもカルチャーショックを受けました。印象的だったのは下北沢のヴィレッジヴァンガード。下北店は特に、他のヴィレヴァンより本への熱量が強い印象があって、よく買いに行きましたね」

ヴィレッジヴァンガードは、本や雑貨や服が雑然と置かれた迷宮のような書店。本のセレクトはベストセラーに偏らず、店員がいいと思えば、知名度の低い本や昔の本が手書きのPOPとともに目立つ場所に置かれたりもする。こんな店が高崎にもあったらよかったのにという思いが、荻原さんの胸に芽生えた。

ICU生時代の荻原さんは、実にさまざまなことに挑戦した。ICU生の伊藤靖朗さんが立ち上げた劇団「地下空港」の裏方、中東やバリ島への一人旅、授業がきっかけで見るようになった能、専門外にもかかわらず分厚い経済書(上下巻、計9,600円)を読破しようとして挫折したことなど、在学中のエピソードは幅広い。さまざまな経験や多様な価値観との出会いから、視野を広げていったことが伺える。

デザイン業から本屋へ 転機となった「ZINE」との出会い

卒業後は 2年間の会社員生活ののち、デザイン学校を経てプロダクトデザインの会社に転職した。ここでは工業製品のデザイ

ン開発の現場でスケジュール管理を経験するも、作り手になりたいという思いから、こちらも2年で退社し、都内でデザインの仕事を探そうといったん高崎に戻る。よい条件の職を探しているうちに縁あって地元でフリーランスでデザインの仕事を始めることになった。この時期に訪れた米国ポートランドで見た光景が、大きな転機となる。個人が自由に作る冊子「ZINE」を扱う書店が連なる街には、誰もが本の作り手になれる土壌があった。「街にあふれるDIY精神に刺激を受けた」と荻原さんは振り返る。

ZINEの文化を、群馬にも広めたら面白 いのではないか。帰国した荻原さんは、高 崎や前橋のクリエーター仲間に「ZINEを 作ってみないか」と呼び掛け、ZINEの展 示・販売イベント「ZINPHONY」を開催。 人の入りは予想以上で、このイベントは半 年ごとの恒例行事となった。群馬には表現 への欲求や好奇心のある人がたくさんいる と実感したことは、本屋開業に向けた手 応えのひとつとなった。その後本屋に適 した物件を見つけ、開業に向けて動き始 め、約2年の準備期間を経て2016年12月、 遂にREBEL BOOKSが誕生した。店名の 「REBEL(反抗)」には、「未知の世界への 扉である本を手に退屈な日常にあらがう」 という意味が込められている。

「あそこに行けば面白いことがある、と感じてもらえる場所にしたいんです。そして、 店もZINPHONYも、長く続けたい。続け ることが、一番大変かつ価値があると思う ので」

開店から1年。REBEL BOOKSは新たな 価値観との出会いを求める人々の中に着 実に浸透している。ZINPHONYも、次の 2018年1月で9回目だ。

これまで、ICU時代の友人知人が何人も来店してくれたという。1万円分の良書を選んで送ってほしいという依頼を受け、友人の住むロシアとシンガポールに本を発送したこともある。文具会社やマフィン店など異業種で働く卒業生とイベントを共同開催することも。荻原さんが学生時代に始めた知の探求は、今やたくさんの人を巻き込み、高崎の街をも変えようとしている。

「高崎」のいいところ

● 東京にも山にもすぐ行ける

半日仕事をしてから渋谷でライブを見て一杯飲んで帰ってくることもできるし、車で1時間走れば登山もスキーも楽しめる。

● 美味しい個人店が充実

東京にあっても流行りそうなクオリティの店が意外とたくさんある。店同士 のいい形の連携がある点も魅力。

REBEL BOOKS

群馬県高崎市椿町24-3 http://rebelbooks.jp/

The ICU Festival 2017 同窓会企画 開催報告

2017年10月21·22日に、ICU祭が開催された。台風21号の影響などで、一部の企画は残念ながら中止になったが、 たくさんの人が訪れ、雨にも負けないパワフルなICU祭となった。

同窓会企画イベントとしては、ICUワインの生みの親シュローダーご夫妻を南アフリカから招き、「DAY受賞者トーク」を開催。

また、大学・同窓会共催ホームカミングでは、「D館まつり」でかつての"D館族"が大いに盛り上がった。

その他、応援企画も盛りだくさん。たくさんの同窓生たちが久しぶりのキャンパスを訪れ楽しんだ。ここでは、「D館まつり」「DAY受賞者トーク」、 そして応援企画として行われた「ラグビー部OBOG会支部主催イベント ラグビー体験会」の模様をお伝えする。

大学·同窓会共催 ホームカミング「D館まつり」

ホームカミングのイベントが大学と同窓会で共催されたのは、 2016年度に続き2回目となる。2017年度は、

ディッフェンドルファー記念館東棟(以下「D館」)が、

近代建築の調査・保存を推進する国際組織「DOCOMOMO Japan」が 選定する2016年度の「日本におけるモダンムーブメントの建築」に 選ばれたことを祝い、「D館まつり」のタイトルのもと、ポスターセッション、 レクチャー、D館ツアー、祝賀会を通して改めてその歴史や価値を振り返った。

文:小熊由美子(8ページ/本誌)、加藤菜穂、水野愛子(9ページ/本誌)

D館まつり(1) D館の存在感を6枚で物語る 「ポスターセッション」

ICU祭開催期間中、アラムナイハウスエ ントランスホールに6枚のポスターが展示 された。企画したのは、津崎良典氏(44 ID00) と岸 佑氏(47 ID03/G2005)。こ のセッションの狙いを、一文字も加工せず、 1枚目のポスターの冒頭にかかれているま まを記載したい。

「ヴォーリズとD館について学術的な観 点から強い関心をこれまで示してこられた、 同窓生、将来の同窓生である在学生、そし て、他大学をご卒業後、ICUに奉職された 教職員、さらには学外の方々が関係したプ ロジェクトに、まずはICU同窓会から篤い 感謝と深い敬意を表明し、そして同窓の多 くの方々とその中身について共有すること、 これです」

本企画のアプローチはポスターの構成か らもわかる通り多角的だが、最後は「あな たにとってD館とは?」と問われた気持ち になる展示だ。

初期設計時ではチャペルと隣接し、本館 と寮を結ぶキャンパスの中心に設置された D館。当時書店から郵便局までを懐に入れ たその意味。単に文化部の部室が集まって いるだけの建物ではなく、趣味や価値観を 共有し、成長し自己発信していく場。ICU の文化の体現。

それぞれが違う記憶や思いをD館に抱い ているのだが、その場に立つと時空を越え て多くの人の時間、歴史を共有している感 覚になる。6枚目のポスター「D館の思い 出帳」にあなたなら何を書き込むだろう? ポスター6枚の構成は以下の通り。

・1 枚目:Alumni News(AN) 誌 掲 載 『ICUキャンパス物語』第八回「後期ヴォ ーリズ時代 1954-1958」より——D館の 見所は? (制作・樺島榮一郎 37 ID93/

・2枚目:シンポジウム「ヴォーリズの夢 ――平和と大学 (2016年10月) の抜粋 写真・映像コンペ「ヴォーリズのICU—

―夢のかけらを集めよう | 受賞作品紹介



写真: 松島眞理 (36 ID92)

・3枚目:「アーキテクトとICU」展の抜粋 (2016年10月・ICU歴史資料室にて)

・4枚目: DOCOMOMO Japanの活動

・5枚目:ディッフェンドルファー記念 館の初期設計案について(制作:岸佑・ ICUアジア文化研究所研究助手)

・6枚目:D館の思い出帳

D館まつり② モダニズム建築としての価値を 解説する「レクチャー」

10月22日には、レクチャー、D館ツア ー、祝賀会が行われ、同窓生、現役生、教 職員とその家族など総勢60名以上が参加 し、大変賑わった。ダイアログハウスで開 かれたレクチャーでは、D館長の佐野好則 教授が司会を務め、日比谷潤子学長の挨拶 に続き、青山学院大学准教授・樺島榮一郎 氏(前述したポスターセッションでもポス ターを制作) と東京工業大学准教授・山崎 鯛介氏が解説を行った。

1997年にICUの建築物を研究し始め、 2006年から本誌にて連載「キャンパス物 語」を担当した樺島氏は、「D館はICUの 文化の中心であり、長く愛され使われ続け てきた建物である」と語り、その歴史と見 所を紹介した。

1950年代、キャンパスに学生会館を作 る計画が進められた。ディッフェンドルフ ァーは、亡くなる直前までICU献学の要と して資金集めに奔走した人物である。コン ペで著名な建築家・W.M.ヴォーリズによ るヴォーリズ建築事務所のデザインが選ば れた決め手は、ディッフェンドルファーを 記念する象徴として、本館に向き合う形で 大きな曲面を描いた屛風状の壁と噴水を有 したことだった。

D館には、1950年代に顕著なモダニズ ム、和風建築の風情が取り入れられている。 中庭の石庭や、かつてオーディトリアムの 座席に張られていた西陣織などがその例だ。

今回、DOCOMOMO「日本におけるモ ダンムーブメントの建築」の選定に携わっ た山崎氏は、D館の建築史的な価値を解説

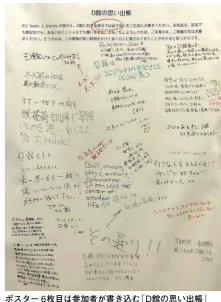


写真:岸佑(47 ID03/G2005)



写真:Samantha Landau(G2008)



2日間にわたってアラムナイハウスで展示されたポスターセッション 写真: 荻本快(50 ID06)

した。

DOCOMOMOは、1988年にオランダで発足した、近代建物の記録と保存を目指す組織で、日本は1998年から参加している。モダニズムとは、1920年代から60年代、「合理主義に立脚し、面や線、ボリュームという抽象的な要素の構成による美学をよしとする社会改革志向に裏打ちされた建築運動」を意味する。

D館の選定においては、建築過程の資料が豊富に残っていること、キャンパスの要となる位置に建っていること、低予算に抑えるため工業技術を積極的に取り入れていること、また2000年の耐震工事でデザインを損なわなかったことなどが評価のポイントとなった。外観の持つ世界観が内部に繋げられていることも特徴だ。

当時の資料からは、デザインの過程で月に1度ほど学生とのミーティングが設けられ、彼らの要望がふんだんに取り入れられたことが読み取れる。こうして、交流スペースを中心に、部室は勿論、理髪店や大ホールなど複合的に多くの機能を兼ね備えた、日本初の「生活の場としての学生会館」が誕生した。

現在、近代建築は老朽化や取り壊しの危機に瀕している。「大変ではあるが、手を掛けつつ長く使い続けてほしい」と山崎氏は語る。

D館まつり③ 在学中は知らなかった魅力を 発見できた「D館ツアー」

講演後、参加者は4班に分かれ、傘を差してのD館ツアーに出発した。この日は台風接近の影響で、在学生による野外ステージの出し物がオーディトリアムに振り替えられ、館内は学生の声でにぎわっていた。D館が現役であることを実感させられる。雨に濡れるD館が、晴天時にはない風情を見せていた。

外観には、市松模様の壁、小石がちりば

められた洗い出しの床面など、随所に和の 趣と模様の差異が見られる。楼閣を想起さ せるテラスと高欄を模した手すり、波打つ 大きな窓ガラス、それを邪魔しない初期の 国産アルミサッシが、軽快さを演出する。

内観もまた美しい。ヴォーリズがこだわった実用可能な暖炉、安く譲り受けた大理石の破片で模様を描いたフォイヤー(ロビー)の床、薄い板や竹を編んで作ったオーディトリアムの網代天井など、多様な技術と意匠が凝らされている。廊下の細長い板を並べた凹型の壁は、音響効果に優れたコペンハーゲンリブと呼ばれる板壁。中庭やオーディトリアム前の吹き抜けが陽光を優しく取り込み、外観との繋がりを生む。

かつて「D館族」だった同窓生たちは、 懐かしむと同時に、在学中には知らなかっ たD館の特徴を、一つひとつ丁寧に、その 目で確かめていた。

D館まつり④ ワイン片手に思い出を 語り合った「祝賀会」

ツアー後、アラムナイハウス2階ラウンジにて祝賀会が開催された。シュローダー夫妻によるICUワイン、バンド Dos Quoiz con Amigos (通称「ドスコイズ」)の生演奏と、卒業生の活躍が会場に華を添える。ICUに関わった年代や立場の異なる人々が、葡萄の香りと懐かしのフォークソングに包まれて談笑する温かな光景は、悪天候を忘れさせた。

会場には、参加者がD館の思い出を自由に書き込むための掲示板があった。同窓生も教職員も皆それぞれ、多かれ少なかれD館の思い出を持っている。D館まつりの運営に携わったメンバーから、D館への思いや貴重なエピソードを聞くことができた。同窓会会長・木越純

「D館は、宗務部に入り浸ってクリスチャンになったきっかけの場所」という木越氏。「今回のことは、いつも祖母の家でご

はんを食べていた茶碗が、急に一級の名品 だと知らされた気分」と表現する。同窓会 としては、今後も大学と連携してホームカ ミングを開催する方針だ。

ポスターセッション企画・津崎良典

ポスターセッションを企画した一人、津崎氏。作成時に重視したのは、先人への敬意だ。「建物はただの器ではない。そこに生きた人たちの感情や記憶が宿されている」。ヴォーリズ、ディッフェンドルファー、過去の学生らが現代に繋いだたすきを次に渡すことが、我々の義務だと言う。ゴッホの言葉を引用し「生きている者がいる限り、死者はその心の中で生き続ける。D館は生きているんですよ」と力強く語った。ICU常務理事・新井亮一

他大学にも古い記念講堂などがあるが、 D館のように未だ現役で学生活動の中心と なる建物は珍しい。「ICU生は薄暗い古臭 い建物の方が落ち着くって言う人が多いん だよね。僕もそう」と笑う荒井氏。「ラウ ンジで、女の子が英語で恋愛相談してきて 困った。分かったふりして相槌を打った」 と愉快な思い出を語ってくれた。

レクチャー講師・樺島榮一郎

樺島氏が調査を始めた当時、キャンパス の建築物は注目されていなかった。「写真 撮らせて下さいとか資料見せて下さいとか、 怪しい人だったかも」と振り返る。価値が 見直され関心が高まったことは、樺島氏の 功績と言える。「今日みたいな日が来るな んて感慨深い」と語った。

Dos Quoiz con Amigosメンバー

メンバーはModern Music Societyに所属し、フォイヤーでのライブやラウンジでのボールを主催した、生粋の「D館族」だ。音楽や演劇など芸術を中心に独特の人間関係が形成されるD館は、ICUの文化の交差点だったと言う。「一つの部室を複数の部で使うから、ギターのアンプの上が人形劇研究会ぱぺっとのお人形さんだらけになっちゃったり運動部に砂まみれにされたり」「1階にあった売店で軽食を買い、友人と語った。卒論の製本もそこ」「ラウンジの電話で就活の結果を聞いた。学外の女の子から掛かって来る時は、皆で一緒に待って冷やかした」と、話の種は尽きない。

今回、みんなが口をそろえて言うのは、 在学中は建物に注目したことがなかったということ。木越氏は「ICUの歴史や価値を 知る機会が入学時にあるとよい」と提案す る。D館まつりは、キャンパスに宿る先人 の思いに触れる意義深い企画となった。D 館に育てられ、未だD館を愛して止まない 者たちの集いは、ドスコイズの演奏に合わ せたICUソングの大合唱で締めくくられた。



D館ツアーに参加したスタッフのみなさん



D館を愛する人々が集ったなごやかな祝賀会



生演奏を披露したDos Quoiz con Amigos 写真:上、左は松島眞理(36 ID92)、右は尾崎正明(22 ID78)

あの場所はこんなにも美しかった! 「思い出のD館アルバム」 写真: 松島眞理









左から:フォイヤーの床がこれほど凝っていたとは!/ヴォーリズがこだわった暖炉の横に、ディッフェンドルファーの肖像画/今もなお学生たちでにぎわうオーディトリアム/本館に向き合うように特徴的な壁面と噴水がある

同窓会企画「DAY受賞者トーク」ICUワインを生んだシュローダー夫妻

2017年の「Distinguished Alumni of the Year (DAY) Award」を受賞した、東京生まれのみどり・シュローダーさん(10 SCHRODER, Midori 人文科学科) と、南アフリカ生まれのハンス・シュローダーさん(13 SCHRODER, Hans-Peter 社会科学科)の夫妻が南アフリカから来日。 10月21日にアラムナイハウスで、大勢の参加者を前に、二人のジェットコースターのように

スピーディーでスリルと変化に富んだ今までの日々を語っていただいた。

文: 小熊由美子(本誌) 写真: 田中国夫(10)

親も国も認めない結婚

みどりさんは高校3年間の米国留学を経て ICUに。船員として世界を巡っていたハンスさ んは、特に日本が気に入り、四苦八苦しながら 独学で日本語を学んでいた時に、ジェイ・ロッ クフェラーがICUに留学していた記事を読み、 入学。二人が出会ったのは自動車部。大学紛争 の真最中のキャンパスで、二人の愛は加速し、 出会いから100日後に結婚を決意した。

みどりさんの父親は南アフリカ人との結婚に 猛反対したが、2日後に二人だけで市役所に結 婚届を提出しに行くと、南アフリカ共和国の法 律ではWhiteはNon-whiteと結婚できないこ とになっている、と書類は受理されず。65年 のこの時代、南アはアパルトヘイト政策を続け ていた。親からも国からも認められない結婚は 「二人の誓い」がすべてだった。

また、当時の日本の法律では、子は父親の国 籍を取得しなければならず、長女のマリさんは あやうく無国籍に。ハンスさんの両親がドイツ 国籍だったため、ドイツ国籍を取得。ドイツ語 を話せないドイツ人となった。

後日「もう国にはもどらない」と誓約書を南 アに提出することで、南ア国籍での結婚は承認 されるが、その後も二人の結婚生活にはアパル トヘイトの陰が顔を出す。特に、娘のマリさん

を南アのご両親にお披露目に行ったときのエピ ソードが典型的。出入国管理を通るときに、金 髪だったマリさんを軽く持ち上げ金髪だけを見 せて通ったという。Non-whiteとの混血をう かがわせるマリさんの顔立ちを見せたとしたら スムーズに通れなかったかもしれない。ちなみ に、アパルトヘイト政策は1994年に終わる。

南アフリカへ――ワインの魅力

結婚後25年の日本在住を経て、89年に南ア に農園を購入し移住。当初6家族の従業員でス タートしたワイナリーも、現在、葡萄作り50人、 醸造担当12人に。ハンスさんいわく、良いワ イン作りには知識と味覚が必要。現在、ワイン 作りを担っている娘婿のホセ・コンデ氏のセン スにはハンスさんも一目置いており、彼が営む スターク・コンデのワインは、南アはもちろん アメリカでもトップワインのひとつとして紹介 されている。ワインに造詣の深いICUのジョン. C.マーハ教授(メディア・コミュニケーショ ン・文化)のアイディアで、2004年に「武蔵 野クロス(通称:ICUワイン)」を生産開始。武 蔵野クロスを購入すると1本につき100円が大 学に寄付される。三鷹市大沢のワインショップ 「Cadot(カド)」で購入可能。

出会いから結婚、南アでワインを手がけるま で、さまざまな困難を乗り越えてきた二人にそ

の秘訣を聞いてみた。「来たことを、のほほん と受け入れた」とみどりさん。「既存のルール などには負けない。負けず嫌いだから」とハン スさん。正反対のようにも聞こえるが、二人が 築いてきた信頼関係が見える。

南ア・ケープタウンから1時間半の都市・ Stellenboschにあるスターク・コンデ ワイ ぜひWebサイト(http://www.stark-conde. co.za/)をご覧いただきたい。日本とは比較 にならない大きな自然、陽気な風と光。おいし いワインが飲め、ゴルフ場も近くにあり、訪問 したくなるのは必至だ。大学同期の皆さんもす でに何人か訪問しているとのこと。シュローダ ーさん、ぜひ今度訪問させてください!



激動の日々をジョークをまじえながら軽やかに語ったシュローダー夫妻

応援企画「ラグビー部OBOG会支部主催 ラグビー体験会」

文: 牛久 等 (24 ID80)



ICUラグビー部OBOG会はICU祭に合わせ、 10月21日(土)にスペシャルラグビーイベント としてラグビー体験会とトークイベントを開催 しました。大学・同窓会・学生と協業すること、 学外者へのICUの認知向上・地域共生を図るこ と、2019年に日本で開かれるラグビー・ワー ルドカップに向け、我々ができることを考えて いく契機とすることが目的です。

体験会では元トップリーガーたちのユーモア とパワーあふれる指導に、大人も子どもも保護 者の皆さんも目を輝かせ、楕円球による交流を 楽しみました。

トークイベントの出演は元ラグビー日本代表 で現ラグビー男女7人制総監督を務める岩渕健



輔氏と、ICUラグビー部OBでアジアラグビー 会長の徳増浩司氏(18) のお二人。国際レベル で交流が図れる人材輩出の重要性が語られると、 現役学生から熱い質問が飛ぶなど予定の1時間 があっという間にすぎました。

台風による荒天に見舞われましたが、体験会 は60名、トークショーの参加者は68名で、三 鷹市の文化・スポーツ関係者の出席も複数いた だき、今後につながるものになりました。会場 と人的協力をいただいた大学・同窓会にも心か ら感謝しています。

腰痛・肩こり・頭痛を改善したいあなたへ

ICU卒業生の佃隆(44期ID00)とパートナーの佃美香が24年間運営しており、毎年1万人以上の 方が来院されています。三鷹駅南口徒歩1分の当院には、ICU関係者の方が来院者の4割を 占めています。当院では、関節の動きが鈍く神経の流れが悪くなっている箇所とあなたの症状 との関連性を分析し、症状の原因を特定します。独自のつくだ式カイロプラクティックケアによる 治療、「『姿勢の魔法』シャキーン!」メソッドによる知識、パーソナルトレーニングエクササイズに よる運動の3本柱によって、症状改善だけでなく、姿勢矯正、ひいてはあなたの理想の暮らしを 送る健康サポートをします。ICUとご縁のあるあなたのお役に立てましたら幸いです。

ファミリーカイロプラクティック三鷹院

〒181-0013 東京都三鷹市下連雀3-24-7 平嶺ビル301号室

「ICUアラムナイニュースを見て・・・」とお電話ください。 tel 0800-888-4270 受付時間/毎日8:30~20:00



当院院長佣降は2016年3月に

1日3回で、ねこ背がよくなる「姿勢の魔法」シャキーン!を上梓いたしました。



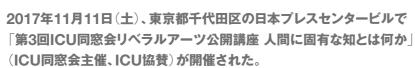




第3回ICU同窓会リベラルアーツ公開講座

副学長・森本あんり氏が語る 「人間に固有な知とは何か」





ICU学務副学長の森本あんり氏が登壇し、「人間に固有の知」のあり方や、 リベラルアーツ教育の果たすべき役割について講演。

卒業生、在校生をはじめ、高校生ら学外の人たちも含めた 計164人が来場し、熱心に耳を傾けた。

文; 滝沢貴大(本誌) 写真: 進藤智士(51 ID07)

存在意義を見出したい―― その感情は自然なものである

森本氏の講演は天文学と音楽に関する話から 始まった。ドイツの哲学者カントの言葉を引用 し、「わたしたちが長く熟考すればするほどに 新たな賞嘆と畏敬の念が心を満たす2つのも の」として、「我が頭上の天空(=自然法則)」 と「心の内なる法則(=道徳法則)」が存在する と述べた。そして、ICUの入学式でも歌われる 讃美歌『はてもしられぬ』の「律法(おきて) は かしこく」という歌詞を提示、この「律法」と いうのは法律ではなく法則のことで、まさにカ ントの言う「2つの法則」を指していると指摘 した。キリスト教の世界観においては、神の言 葉、すなわち「ロゴス」は聖書の言葉からだけ でたく。その被告物である宇宙を構成する自然 法則からも知ることができ、だからこそ自然法 則と道徳法則との対応関係が重要だと考えられ ていると紹介した。

また、類似した考え方は他宗教にも存在する として、仏教やヒンズー教の「ダルマ」、道教 の「タオ」の概念についても触れ、前述のカン トの考え方は極めて普遍的なものであると指摘 した。加えて、無神論を掲げる日本共産党の墓 地に刻まれた「不屈の戦士 ここに眠る」とい う言葉や、戦中死にゆく若者たちが残した「悠 久の大義に殉ずる」という言葉を紹介。人は本 質的に「意味」を求める生き物であるため、特 定の宗教によらずとも「自分よりも大きな何 か」に繋がりを感じたいものであり、そこから 人間としての存在意義を見出したいと考えるの は自然な感情であると論じた。近代に入り、科 学の発展により宇宙の広大さや人間という存在 の偶然性が知られるほどに、そうした「存在意

義に対する問い」は深まっていると述べ、それ は「人間固有の知」という本講演のテーマにも 繋がると示唆した。

人工知能VS人間 私たちの「知」とは何か?

話は変わり、京都大学の霊長類研究所が昨夏 発表した「チンパンジーがじゃんけんを学習し た」とする実験結果が紹介された。実験結果に 対し、「いくつかのパターンを認識し、条件反 射で答えているだけの可能性があり、ルールを 本当に理解しているかどうかは証明できない」 と指摘。そのうえで、「それでは人間固有の知 はあるのだろうか」という問いを投げかけ、そ れを知るためには人間と比較可能な「鏡」が必 要であるとして、近年進歩の著しいAI(人工知 能)に話を移した。

森本氏は「ロボットやAIは、いずれ人間同様 に自己を認識できるようになるのか」という問 いに対し、「それらはどこまでも進化できるか らこそ、逆説的に自己認識ができないのではな いか」という見解を述べた。すなわち、「自分 とはどこからどこまでか」と境界線を引かなけ れば自己を認識することはできないはずで、人 間は空間的にも時間的にも限界を持っている有 限な存在だからこそ、自己認識が可能なのだと 指摘した。そして、それこそが人間固有の知の あり方であり、リベラルアーツ(教養)教育の 学びとはこうした「自分を振り返る力」を養う ものであると述べた。これに関連し、森本氏は 教養について「教養とは、TPOに応じてアクセ サリーのように身をかざるものではない。ただ 知識を持つだけじゃなくて、その知識を持った 自分が変わること、広い世界を知ったうえで、 その中に自分を位置付けてみる力のことだ」と





述べた。

リベラルアーツがめざすもの それは自分自身を知ること

講演の締めくくりとして、旧約聖書の詩篇8 篇の言葉が紹介された。

「わたしは、あなたの指のわざなる天を見、 あなたが設けられた月と星を見て思います。人 は何ものなので、これをみ心にとめられるので

すなわち、「私たち人間も、天の美しい月も 星も、等しく神の被造物であるが、なぜ人間は 特別な能力、すなわち月や星を見ている自分を 振り返る力を与えられたのか」という3000年 も前に投げかけられた問いである。森本氏によ ると、その答えはすでに出ているという。すな わち、この力は神から特別に与えられた「理由 なき恵み」であり、だからこそ神に感謝し、そ れを世のため人のために使うべきだ、というこ

森本あんり(23 ID79)

MORIMOTO, Anri

ICU教授(哲学・宗教学)、2012年よりICU 副学長。1956年生まれ。ICU、東京神学大学、 プリンストン神学大学を修了(Ph.D.)。プリ ンストンやバークレーで客員教授。著書に「反 知性主義』『アメリカ的理念の身体』『アメリ カ・キリスト教史』『人間に固有なものとは 何か」(編)など。最近では米国の反知性主義、 ポピュリズムやポスト真実などの話題で、し ばしばメディアに登場している。

最後にローマの地下墓地に書かれた「汝自身 を知れ」という言葉を示し、「自分の有限性を 知ったうえで、限られた命の中でできる限りの ことをするために、この能力が与えられている のだ」と述べた。「人間に固有の知、それは『自 分自身を知る知』のことである。それはどんな に科学技術が進歩しても変わらない。そして、 それこそが人間が求めるべき知であり、大学教 育、リベラルアーツが目指している知ではない だろうか」という言葉で、講演は結ばれた。



ウェテイング・レセプション承ります

ご予算に合わせ、お料理のご注文に応じます。 同期会・サークルのお集まりなどのケータリングも、 ぜひご相談・お問い合わせください。

東京ケータリング(株) ICU食堂

TEL&FAX 0422-33-3519 携帯 080-3117-3203 e-mail; tck.icu-shokudou@chorus.ocn.ne.jp

7_Major

全31の中から気になるメジャーを紹介

第15回 法学 松田浩道助教



松田浩道

MATSUDA, Hiromichi

2009年東京大学法学部卒業。2011年、東京 大学 大学院法学政治学研究科 法曹養成専攻 修 了 (Juris Doctor)。2013年、Columbia Law School 修了 (LL.M.)。東京大学大学院 法学政治学研究科助教、同講師を経て、 2016年にICU着任。国際模擬裁判活動にも 取り組み、国内外の大会に出場して成果を上 げている。専門分野は公法学(対外関係法、 人権法、比較憲法)。国際法と憲法の両方の 観点から人権論を研究するという関心のもと、 憲法秩序における国際規範の法的効力につい て 比 較 法 研 究 を 行 う。Columbia Law School 在学時に日本語教育能力検定試験にも合格。

世界では、個人と個人の利害の衝突から、宗教・民族・国家レベルの対立にいたるまで、争いが絶えない。 こうした諸問題を解決する手段の一つである「法」を学ぶことは、人間社会のありようを知ることであるとともに、 平和や自由といった社会の理想を考えることでもある。

法学メジャーではどのような学びが行われているのか、着任から1年が経つ松田浩道助教に語っていただいた。

構成:水野愛子、小林智世(本誌) 写真:望月厚志(本誌)

法、正義、平和、人権について徹底的に考える

ICUの法学メジャーが目指すのは、資格 試験で求められるような判例・学説の知識 や法解釈論を身につけることだけではあり ません。法制度の基盤となっている正義、 人権、平和といった概念について歴史や思 想の面から考察を深める点にも重きを置い ています。卒業論文に関しても、狭い意味 での法解釈論に限定する必要はなく、自身 が関心を持つ社会問題について複数の考え 方を分析しながら徹底的に考え、自身の主 張を説得的に論述することを目指していま す。

バイリンガル教育のなかの 法学メジャー

献学以来、ICUが目指してきたのは徹底したバイリンガル教育です。これまで、日本における法学研究・法学教育は、その大半が日本語で行われてきました。明治以来、西洋語を日本語に翻訳することには成功してきたのですが、日本の法制度について英語で発信していくことには、まだまだ追いついていないのが現状です。例えば、日本国憲法第9条の存在については海外でもよく知られていますが、日本の政府見解がどのような論理に基づくもので、国内でどれほど複雑な議論が重ねられてきたのか、その全体像を把握するには英語で書かれた情

報が不足しており、海外の方には理解が難しいのが現状だと思います。「世界と日本の架け橋」となるICU生の役割がとても重要です。

日本の法制度について英語で説明するた めには、まず日本語で書かれた一次資料を 正確に理解しなければなりません。法概念 の理解のためには歴史的背景や思想史の理 解も不可欠ですから、これだけでもかなり 高度な知的作業を必要とします。さらに、 フランス法やドイツ法に大きな影響を受け てきた日本の法制度には英米法圏には存在 しない概念がたくさんありますから、英訳 を行うためにはヨーロッパ諸国の法制度や 英米法についても深いレベルで理解し、各 国における概念の相違点を正確に把握する 必要が出てきます。つまり、法制度の日英 翻訳は狭い意味での語学力を超え、日本と 世界に対する深い理解があって初めて可能 になります。これは専門の研究者にとって も極めて難しい作業ですが、世界水準の語 学教育を受けたICU生が率先して取り組む べき課題でもあると思います。

私の憲法の授業では、日本の法制度を日本語で正確に理解した上で、それを英語で表現することを目指しています。日本語の教科書を用いて日本語で授業をしつつ、学生には英語で口頭発表をしてもらっています。秋学期は、カナダから招いた法律家の先生による英語のゲストレクチャーも行い、ICUらしいバイリンガル授業が実現しまし

た。日本語が母語でない学生にも履修して もらえるよう、引き続き工夫を凝らしてい きたいです。

リベラルアーツに込められた 意味と責任を意識

1953年、ICUの開学式において東京大 学総長として祝辞を述べた矢内原忠雄は、 「われわれ国立大学では企て得ないような 方法と精神を以て人間教育の効果をあげら れることを希望」する、というメッセージ を残しています(『矢内原忠雄全集 第二十 一巻』「国際基督教大学のもつ意味」827 ページ)。国公立の大学には憲法上の制約 があり、一定の価値にコミットすることは 困難です。それに対し、ICUは「平和を構 築する地球市民としての教養と責任を身に つけ、神と人とに奉仕する有為の人材を育 成する」ために献学されました。ICUには、 平和と人権という確固たる基盤を持った人 格教育を行う使命があります。法学メジャ ーも、ICUのリベラルアーツに込められた 意味と責任を強く意識しています。

この点を踏まえ、春学期の一般教育「日本国憲法」では既存の教科書は用いず、ICU献学の理念との関係で平和と人権について徹底的にクリティカルシンキングを行うことを目指しました。受講生の要望がきっかけで、大学牧師の北中晶子先生と一緒に同性婚について特別授業を行うことができたのも、とても良かったと思います。

ICUのリベラルアーツはかなり徹底していますし、学生たちも自ら真摯に考えようという姿勢を持っていて本当に素晴らしいと思います。ICU生には、正義、自由、平和、人権といった概念を突き詰め、自分の見解を説得的に表現する訓練を積んでほしいと思います。自分が本当に知りたい問いをどこまでも探究できるリベラルアーツのなかで、徹底して考え続けることを身につけてもらえたら嬉しいです。

法学メジャーのデータ

●開講されているクラス

法学入門 国際法概論

憲法|

行政法 I 国際法 I

国際法 I 環境法

国際人権法

法哲学 刑法 I

民法Ⅰ

商法 社会保障法

労働法 など

●担当教員 (2017年度現在) 新垣 修 ARAKAKI, Osamu 寺田 麻佑 TERADA, Mayu 西尾隆 NISHIO, Takashi 松田 浩道 MATSUDA. Hiromichi

吉田 文彦 YOSHIDA, Fumihiko

7/A_People 高倉 明

各ジャンルで活躍の同窓生を紹介

TAKAKURA, Akira

1981年3月、国際基督教大学教養学部卒業。同年4月、日産自動車に入社。1989年、日産 労連 国際局(兼)総務企画局 副部長に就任。1990年、自動車総連 国際局部長に就任。 2008年、日産労連会長に就任。現在は自動車総連会長、金属労協(JCM:全日本金属産 業労働組合協議会) 議長、連合(日本労働組合総連合会) 副会長、およびインダストリオ ール・グローバルユニオン副会長/執行役員/アジア太平洋地域共同議長を兼任。

働くことの厳しさを学んだ学生時代。 今、誰もが生き生きと働ける社会をめざして

2017年9月、自動車総連(全日本自動車産業労働組合総連合会)の代表に、高倉明さんが就任した。 自動車総連は、自動車メーカーのみならず、部品メーカーや販社など自動車産業を支える全業界の労組を束ねる団体。 ICU卒業生が同団体の代表となるのは史上初である。

就任後初の年越しを控えた2017年12月、品川の自動車総連本部でお話を伺った。

文・写真: 小林智世(本誌)

学びの場は教室よりも アルバイト先

高倉さんは1958年、広島に生まれた。 ルーテル派の牧師である父の転勤に伴い、 広島から大阪、大阪から熊本へと2度の引 越しをしたという。高倉さんは熊本の高校 からICUに進学し、父の母校であるルーテ ル学院大学(ICUの隣)の寮で生活を始め る。東京には2年前にICUに入学した姉が すでに住んでおり、さらに3年後には妹も ICU生に! 周囲からは「高倉3姉弟」と して知られていたそうだ。

在学中の過ごし方を尋ねると「アルバイ トばっかりで、あんまり授業に出なかった から……自分なんかが同窓会報の取材を受 けていいのかな」という回答が。自動車に 乗ることと人に接することが好きだった高 倉さんは、勉強よりもアルバイトに重点を 置いた生活をしていた。一番長かったのは 府中にある運送屋のアルバイトで、それ以 外にも夜間の洗車やホテルのウエイターな ど、数々の職種を経験。さまざまな人との 出会いが楽しかった半面、「お金を稼ぐっ てのは大変なことだな」と身をもって感じ たそうだ。大学の教室よりも、仕事の現場 から学びを得た学生時代だったことが伺え る。しかし後に高倉さんが労組の仕事をす ることになると考えると、この時期に体得 した労働への理解は大いに意味があったと 言えそうだ。

人生を変えた労組からのスカウト

大学卒業後、高倉さんは日産自動車に入 社。自動車への興味に加え、同社のものづ

くりと国際的なビジネス展開に惹かれたと いう。最初の配属先は中近東の営業。与え られた仕事は、クウェートの自動車ディー ラーを定期的に訪問し、現地のニーズを聞 いて日本の開発者たちに伝えることだった。 猛烈な暑さの中でも故障せず、現地人に受 けるデザインの車を作ってもらうため、両 国の橋渡し役として奮闘した。異動で日本 に戻った期間もあったが、数年後に再び海 外営業を任され、今度は西アフリカの担当 に。文化の壁に直面しつつも、クウェート の時と同様、ナイジェリアやガーナのディ ーラーと本社の関係構築に努めた。

そのまま海外営業を続けるビジョンを持 っていた高倉さんだったが、入社8年目に して思いがけないところから声がかかる。 日産労組(全日産・一般業種労働組合連合 会)から、専従(労組の仕事だけをする社 員)になってほしいと頼まれたのだ。実は 高倉さんが入社して間もない頃、労組が主 催した運動会の出し物で、高倉さんが当初 やる気のなかった本社チームを頑張って指 揮した結果、チームが例年以上の力を見せ て驚かれたことがあったという。「あれで 目を付けられたんじゃないかな」と高倉さ んは回想する。自分の意外な適性を見出し てくれた労組に報いたいと感じた高倉さん は、専従になることを決めた。

通常、専従は2~10年程度で終わるが、 高倉さんの場合は違った。専従になった翌 年、今度は自動車総連の役員になってほし いと頼まれ、高倉さんは海外営業から完全 に離れることを決断。高倉さんの仕事は、 自動車の売り手と買い手の橋渡し役から、 労使間の橋渡し役へとシフトしていった。

経営者と戦うのではなく、 共に産業の活性化を目指す

仕事は変わったが、高倉さんと海外との 縁が切れたわけではない。営業時代に培っ た英語力と交渉力を買われ、高倉さんは海 外の労組との連携に長く関わった。2008 年には日産労連の会長に就任。現在は自動 車総連会長の他に、国内のみならず国際的 な労働者団体の要職も兼任している。企業 の労組が働きかける対象が経営者なのに対 し、自動車総連のような業界の労働者団体 が働きかける対象は経団連などの業界団体。 つまり業界の労働者団体の役割は、業界団 体が打ち出すビジョンに対し、労働者の立 場から意見を提示することなのだ。

労組というと、組合員が拳を振り上げ、 経営者の言うことには何でも反対するとい ったイメージが先行しがちだ。しかし高倉 さんは、それは労組の本来の姿ではないと

「労働者も経営者も、産業全体の健全 化・活性化を通じて豊かな社会を実現した いという思いは同じはず。我々は経営者と 戦うのではなく、同じ方向を向いて意見を 交わし合うような、建設的な組合活動を目 指しているんです」

その言葉通り、自動車総連は業界の経営 者団体と連携して、労働環境の改善や産業 の活性化に取り組んできた。具体的には、 自動車メーカー間で夏休みがばらばらなた めに複数社と取引のある部品メーカーが夏 休みを取れなくなる問題を解消するため、 自動車メーカーの夏休みを統一したことな どが挙げられる。東日本大震災後の数か月



間は、業界全体で休日を土日から木金に変 え、電力不足を乗り切ったこともある。

雇用形態が多様化し、低賃金や過労、女 性の働きにくさなどが社会問題となってい る今、労組の役割はますます重要になって きている。「誰もが労働に見合った賃金を 得られ、生き生きと働ける世の中にしてい きたい」と語る高倉さんの挑戦は、まだま だ続く。

自動車総連 加盟労連

全トヨタ労働組合連合会 339,000人 129,000人 全国本田労働組合連合会 スズキ関連労働組合連合会 28,000人 771,000人 17.000人

自動車総連公式サイトの表をもとに作成



2018 ICU 演能 御案内



2017.7.8 D 館 「羽衣」

・出演者: 金春流職分 中村一路 後見 本田光洋

· 日時: 2018 年 7 月 7 日 (土) 予定

地謡 中村勝 (7期) 桑原明(9期)外

・主催:一露之会

・曲目 : 「葛城 」

・共催:ICU キリスト教文化研究所 ICU アジア文化研究所

·協力:ICU 能楽研究会 早稲田大学金春会 ·後援:肥後金春流保存会 最中の肥後高砂や

ICU デイフェンドルファー記念館講堂 12 時開場・13 時開演・16 時終演

·協賛:ICU能作成協賛 一口

¥5,000-(入場案内 解説・手引等提供) ・連絡先:中村一路 oneroad@kni.biglobe.ne.jp 中村勝 096-352-5339 /090-3609-4460



「未来予想ΖΟΟ」レポート

2017年9月23日(土)、樅寮・楓寮のコモンスペースにて、ICU同窓会によるイベント、 「未来予想ZOO―ICU卒業生のさまざまな生き方にふれる」が開催された。その模様をお伝えする。 文・写真: 安楽由紀子(本誌)

「未来予想ZOO」は、在学生が進路相談 に限らず、学生時代の過ごし方やメジャー の決め方など幅広いテーマで卒業生とディ スカッションできる同窓会主催の学生応援 プログラム。ICU卒業生の多様性にふれる ことを目的として今回初めて開催された。

参加した卒業生は会社員、起業家、 NPO、フリーランス、大学院生など、さ まざまな生き方をしている20人。年齢層 も幅広い。在学生は1年生から4年生まで の45人が参加した。10のテーブルに卒業 生2人+在学生4~5人ずつに分かれ、1時 間半。途中で1度グループをシャッフルし、 ざっくばらんに語り合った。

在学生からは、「やりたいことをやり続 けていいのか自信が持てない」「"人並みの 幸せ"ってなんだろう?」「もっと社会に 直接役立つことが学びたいが、どうしたら いいか」といった、人生の先輩である卒業 生といえどもなかなか答えにくい質問が率 直にぶつけられた。

一方、卒業生からは、「自分を追い込み すぎると疲れてしまう。"したい"と思う ことが変わってもいいというつもりで、気 持ちを長く続けることが大事」「チャンス を得るには人脈が大切。『こういうことに 興味がある』と言って種をまいておくと声 がかかることもある」「成績で "A" をもら って喜ぶのではなく、もっと本質的な勉強 をすべきだった」など、実体験に基づいた 具体的なアドバイスやエールが送られ、卒 業生同士が聞いても「なるほど」と思わさ れる意見も多数あった。

在学生だけでなく 卒業生にとっても刺激に

恋愛や男女間、結婚後のキャリアについ ての話題も出た。

「組織に入って、飲み会で女性が当たり 前のようにビールを注いでいる姿を見てカ ルチャーショックを受けた。ICUの男性は 総じてやさしい」と笑うのは男性の卒業生。

「結婚や出産後も仕事と両立できるのか不 安だ」と悩む女子学生に、「自分が選ぶ仕 事に合わせて理想のパートナー像も考えた ほうがいいと思うよ」とアドバイスしたの は、ICU生同士で結婚した木越 純会長だ。

親や先生でもない。少し年は離れてはい るが、かつては同じICU生。そんな卒業生 だからこそ、こうした話題も気軽に話し合 えるのだろう。

グループディスカッションのあとは、軽 食がふるまわれ交流会が行われた。すっか り打ち解けた参加者たちは、思い思いに輪 をつくり会話を弾ませ、中には連絡先を交 換し、後日会う約束を交わした人もいた。

学生たちはそれぞれに得たものがあった ようで、スッキリとした笑顔が見られた。 「4年間、何をすればいいんだろうとモヤ モヤしていたが、卒業生の話を聞いて指針 が見えた。今まで興味がなかったことも見 ていきたいと思った」(1年女子)

「大学院進学か就職かで迷っていたが、同

じように悩んだという卒業生がいたので、 意見が参考になった。人に話すことは大事。 いい時間だった。自分も後輩にアドバイス できるようになりたい」(3年男子)

「いろいろな世代の人と話すことができて よかった」(2年女子)

学生たちだけでなく、卒業生も新鮮な時 間を過ごせたようだ。

「学生たちから逆に刺激を受けて、改めて 自分の生き方について考えました」

「学生は学内の視野でものごとを見がち。 こうした学外の人たちとの交流は意味があ ると感じた」

「学生ならではのまっすぐな思いが懐かし かった」

大学を卒業しても行く先がぼんやりとし て見えない時代。世代を超えて、ZOOの ようにさまざまな声で語り合うことで、そ れぞれの未来予想図を描くヒントが得られ るかもしれない。大いなる可能性を秘めた イベントだった。



お問い合わせ・資料のご請求は

当社へお預け入れいただき、

0120-988-494 受付時間 平日9:00~17:00(土・日・祝日および 12/31~1/3はご利用いただけません) お問い合わせの際は「アラムナイニュースを見た」とお伝えください。

お申し込みは平成31年3月22日まで

孫への想い 検索 その人を信じて、その人に託す。 Meet The Trust Bank 三井住友信託銀行





フリートークの様子

「キャリア相談会|開催報告 先輩たちの「生の声」を聞きながら、キャリアについて考える

学生向けの就職相談イベントである「キャリア相談会」が、2017年12月9日(土)、ICUの大学食堂で開催された。 例年、都心の会場で開かれていた当相談会だが、4回目となる今年は、土曜日に授業がある学生の参加のしやすさを考慮し、初めてICU学内で開催した。 参加学生は約80人、協力いただいた同窓生は約70人と、学生と同窓生が1対1に近い密度の高さでコミュニケーションする機会となった。

文: 國村有弓 (55 ID11 学生部担当副会長) 写真: 岡村一輝 (52 ID08)

同窓会が主催するキャリア相談会は、特 定の企業について知る通常の就職フェアと は異なり、さまざまな角度から仕事やキャ リアをとらえ、学生が先輩と語り合う貴重 な機会である。お子さまがいる世代の同窓 生にもご協力を仰げるような配慮として、 昨年に引き続きベビーシッターを手配した。

相談会は、グループトークとフリートー クの2部構成で、グループトークでは同窓 生と学生が同人数ずつ7~8人のグループ に分かれ、30分間のセッションを計4回実 施。前半の2回は8つの「テーマ」、後半の 2回は12の「業界」ごとにグループに分 かれ、学生たちは自分の興味・関心がある テーマや業界のグループに加わり、先輩た ちの話に耳を傾け、闊達に意見を交わした。 今年は「キャリアを選択する上で譲れない 価値観」をテーマとして設定。「専門性」 や「国際」といった、自分が大事にしたい 価値観という、企業名や業界とは別の視点 で将来の働き方について考えた。業界別ト ークでは、同じ業界の異なる企業、職種、 年代の同窓生たちの話を聞くことで、多角

的視点から業界についての理解を深めてい ただいた。

昨年好評だったフリートークの時間では、 学生たちは緊張しながらも、グループトー クでは聞ききれなかった質問を先輩たちに 投げかけ、白熱した時間となった。

開会の際、木越純同窓会会長(27 ID83) が「私にとっては、就職より"就 人"。一緒に働く『人』が大事」と、働く 上で何を大切に考えたいかは人によって異 なり、自分の答えを見つけてほしい、と語 りかけた。その言葉が心に響いた学生も多 かったようだ。

人生の先輩である同窓生たちと交流した 学生たちからは「仕事を通して何がしたい かをしっかり考えようと思った」、「いろ んな年代の人と話すことで、自らの5年後、 10年後について想像できた」、「ICUの卒 業生という安心感で、普段はなかなか聞き づらい質問も聞くことができた」という声 も寄せられ、同窓生の「生の声」を聞くこ とで、自分自身のキャリアについて向き合 う様子が伺えた。

相談会終了後、引き続き参加同窓生の 懇親会が食堂で開かれた。ICUワインを飲 みながら、同窓生同士の交流が盛り上が り「自分にとっての気付きが多く、自分自

身を振り返る良い機会となった」と、日々、 仕事に追われる同窓生にとっても貴重な体 験となったようだ。



≪ICU 同窓会の皆様へ≫ 三井住友トラスト VISA ゴールドカード 年会費を大幅割引!

VISA ゴールドカード



通常税抜10,000円+税

税抜2,500円+税

ロードサービス VISA ゴールドカード



通常税抜11,000円+税

税抜3.000円+税

- ★ ご家族も本会員申込みOK!
- ★ ご家族会員も本会員と同じサービスが受けられます!
- ★ 同窓会にもメリット!カード利用額の一部が同窓会に還元!
- ゴールドカードは日常生活の様々なシーンでお役に立ちます!

※本会員年会費は左記のとおりです。家族会員年会費は、税抜1,000円+税です。 ※ロードサービスVISAゴールドカードは、別途ETC年会費税抜500円+税(初年度無料)がかかります。 なお、1年間に1回以上ETC利用のご請求があれば次年度は無料です。 ※ご入会にあたっては、当社所定の審査がございます。

申込書請求先(メール、FAX の方は、ICU 同窓会員であることに加え ①名前 ②住所 ③電話番号 をご送信願います。)

- ◆メールの方
- ◆FAX の方
- Moushikomi@smtcard.jp 03 - 6737 - 0834
- ◆お電話の方
- 0120 370 070

(取得した個人情報は VISA カード入会申込書を送付することに限定いたします。)

お電話受付時間:平日 9:00~17:00(土・日・祝日・12/30~1/3 休) 営業推進部:中馬・菅原・土屋



From the University

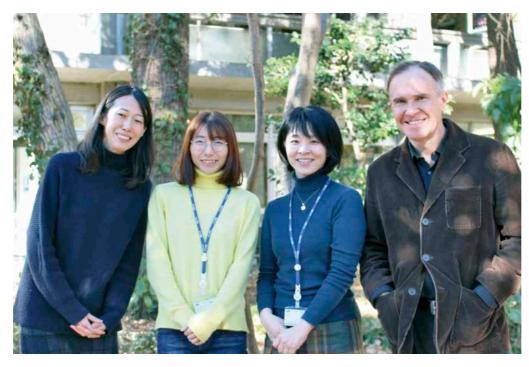
大学のページ

今号も前号に続き、大学事務部署の今をお伝えします。

第2回は、大学礼拝、キリスト教週間、その他の特別礼拝などの運営・サポート、また学生のさまざまな相談に応じている宗務部の概要と現在の活動を紹介致します。

Continuing from the previous issue, we feature what is happening today in the offices of ICU.

The second of the series features the overview and current activities of the Religious Center, which operates and supports the university services, Christianity Week and other special services and offers a variety of advice to students.



左から 北中晶子牧師、近藤美和さん、広瀬志保さん、 ポール・ジョンソン 牧師

From left: Rev. Shoko Kitanaka (Minister), Miwa Kondo, Shiho Hirose, Rev. Paul Johnson (Minister)

宗務部

文:宗務部長代行 北中晶子

宗務部の紹介

ICUは戦後、長年にわたる国内外のキリスト者の祈りと国際的な協力によって誕生しました。その創立の目的には、「キリスト教精神に基づき」「神と人とに奉仕する良心的な人材を養成する」ことが明記されています。宗務部はこの目的に貢献するため、ICU共同体に属するすべての人が、いわば「理念に生きる」ための出会いの場を提供し、宗教活動を推進することを目的としています。

具体的には、毎週水曜の昼休みに行われている大学礼拝(チャペルアワー)、毎年5月に行われるキリスト教週間、クリスマス大学燭火礼拝をはじめとする特別礼拝の他、宗務部主催の国内外のワークキャンプ、リトリート、聖書研究、さらに先生方や学生によって行われる勉強会や讃美集会のサポートがあります。また、信仰や宗教に関することはもちろんのこと、人生において直面する様々の課題や葛藤、社会問題など、多岐にわたる相談に応じるカウンセリングの役割も果たしています。個別の問いに向き合うだけでなく、これらの問いを抱えた人とが宗務部を介して出会いを果たし、関係を育んでいくことも私たちの強い願いです。

現在2名の職員と2名の牧師が宗務部スタッフとして働いていますが、全員がICU教会スタッフとして、教会事務所の役割を果たしていることも宗務部の大きな特徴です。大学教会であると同時に近隣の人々にも開かれた教会であるICU教会は、1)ICUの宗教生活と教育の完成を助け、2)教派を超えた交わりと、3)宣教と奉仕を

めざすことをその目的としています。ICU は大学である限り、宣教・伝道は直接の目 的ではありませんが、まさにそれらを主要 な柱とする教会の生きた共同体が大学と不可分のものとして身近に存在することは、キリスト教大学としてのICUの大きな特徴でもあります。

現在強化している取り組み

全員が宗務部スタッフであると同時に教会スタッフでもある宗務部では、学生伝道が常に大きな活動目的であることはもちろんですが、今年度から新たな取り組みとして大学職員のためのキリスト教入門も行っています。職員が主体となって行われ、職員同士のやり取りの中で深められていくキリスト教理解は、学問的探究と常に隣り合わせで行われる勉強会とはまた違った角度から人生に光を当て、経験に裏打ちされた味わいに満ちています。ICUに勤める一員として、職員の皆さんが積極的にキリスト教精神に触れられることを願って続けられています。

現状の課題や今後取り組むこと

学生一人ひとりにさまざまな人生がありますが、ICUでのキリスト教との出会いについて考える時、単に知識を身に付けるだけでなく、信仰の有無にかかわらず自分自身の生き方に関わる方法で出会いを深めてほしいと切に願っています。イエスの言葉や聖書の話、また歴史の中でキリスト教が投げかけてくるさまざまな問いに対して、他の誰でもない自分として受け止め、考えていくことは、自ら主体的に探究する自由な精神活動なくしてあり得ません。ここに大きな希望と目標を見出して、ICUのキリスト教活動はすべて自由参加です。

具体的には人数の浮き沈みもあり、特に大学礼拝に集う人数の増加はここ数年の大きな課題です。今年度から礼拝終了時間が4限開始の5分前となり、学生や先生方にとって出席が困難になったことも否定できません。(礼拝堂から文字通り走って出て行く学生の後姿に、それでも来てくれたのか…と胸が熱くなることもしばしばです。)難しい課題ですが、一回一回の礼拝は、本当に宝物のような先生方、学生たちのお話を聴く貴重な機会であり、まさにICUの心臓の鼓動であると確信しています。一人で

も多くの人が参加できるよう、工夫を重ね ていきたいと思います。

同窓生の方に伝えたいこと

朝、ぼんやりと宗務部に向かうと薄暗い D館の廊下で「待ってた!」と飛び出して きたり、昼、会議中の窓の向こうから好奇 心に満ちた顔で覗き込んできたり、夜、静 まり返ったオフィスに音もなく入ってきて 座り込み、くつろぎ始めたり…。猫の当ません。宗務部に出入りする学生た ちは、人数は多くありませんが、その涙も ちは、人数は多くありませんが、その涙も ないも、一つひとつの取り組みを続けるよ めの揺るぎない原動力であり、ICUで働く 大きな喜びの源です。もっと多くの学生に 出会いたい。一人でも多くの教職員と対話 したい。人間的なやり取りの中で育まれて いく血の通った「対話」こそ、神がそれを 通して働いて下さる不思議な力に満ちてい ます。

その対話はいつも、今も続いています。 お近くの方はICU教会の礼拝に、ぜひ一度 いらしてみて下さい。教会の扉はすべての 人に開かれて、キリストとの出会いがそっ と訪れることを、心から願い、お待ちして います。



C-weekのワーシップ・ランチの様子

Workship-Lunch at C-week



Religious Center

Shoko Kitanaka, Acting Director, Beligious Center

Introduction of the **Religious Center**

ICU was born after the Second World War as a result of the prayers of many years of Christians in Japan and abroad and their international cooperation. The purpose of ICU's establishment is to educate conscientious individuals to serve God and people based on Christian ideals. The aim of the Religious Center is to offer a forum for everyone who belongs to the ICU community to create opportunities to live up to the philosophy and promote religious activities.

In particular, the Religious Center conducts the university service (Chapel Hour) during lunch break on every Wednesday, Christianity Week held in May every year, and special services including the Christmas Candlelight Service as well as Work Camps in Japan and abroad, Retreat and bible studies hosted by the center, and supports study groups and worship meetings

held by faculty members and students. It also plays the role of an advisor not only on faith and religion but also on wide-ranging matters including the various issues people face in their lives, conflicts and social problems. We, at the Religious Center, strongly wish to not only tackle those individual issues but also get people facing such issues to meet through the Religious Center and build a relationship.

At present, the Religious Center has two staff members and two ministers, and a major feature of the center is that all of them also serve as ICU Church staff. While being a university church, the ICU Church is also a church open to people in the neighborhood, and its aim is to 1) to enhance the religious life and educational goals of ICU, 2) to creat an all-inclusive Christian fellowship, and 3) to extend the Christian ministry to all persons. Insofar as ICU is a university, missionary work and preaching is not its direct purpose, but at the same time the

existence of the living community of the church, whose core pillars are missionary work and preaching, as an inseparable part of the university is a significant feature of the ICU.

Initiatives that are being strengthened currently

At the Religious Center, while ministry service to students is always one of the major purposes of our activities, from the current academic year we began offering a brief Christianity session for the university staff as a new initiative. The session is conducted by staff members, and the understanding of Christianity through exchanges among staff members sheds new light on people's lives from an angle different than that of the study meetings held in academic settings, and is full of profound meaning backed by life's experiences. As members serving for ICU, we constantly pray that the ICU staff will actively stay in touch with the spirit of Christianity.

Current issues and future initiatives

Each student has his or her respective lives, and when we think about their encounter with Christianity at ICU, our sincere hope is that, more than just acquiring knowledge, they would deepen such encounters in a way that affects their own way of life with or without faith. Grappling with various questions posed by Christianity, through the words of Jesus and the stories from the bible as well as the course of history, as your own and thinking about them cannot be achieved without unfettered mental activities of voluntary pursuit. We find

great hope and goal in it and that is why all Christianity activities at ICU are non-obligatory, based on free choice.

In reality, the number of participants fluctuates and an increase in the number of people participating, especially in the university services, has been a major issue in recent years. From the current academic year, the time at which the service ends was changed to five minutes before the start of the fourth period, which obviously made it more difficult for students and faculty members to attend it. (I often feel moved when I see students literally running back from the

Each service is a precious experience to listen to stories of faculty members and students, and I firmly believe that it is the true heartbeat of ICU. We will continue to work on ways so that as many people as possible can participate in it.

Message to alumni

The number of students who regularly visit the Religious Center is not too many but both their tears and laughter are one of solid driving force for us to continue working on the various initiatives and a source of significant joy for us to work at ICU. We want to meet as many students as possible. We want to have dialogues with as many faculty and staff members as possible. Compassionate dialogue nurtured in humane exchange is filled with the mysterious ways in which God works.

These dialogues are continuing even now. If you are in the vicinity, please join the service at the ICU Church. The doors are open to everyone.

宗務部の概要

●場所:ディッフェンドルファー記念館東棟 1階

●人数:牧師2人、職員2人

大学礼拝(チャペルアワー)、毎年5月に行われるキリスト教週間、クリスマス大学燭火礼拝 をはじめとする特別礼拝の他、宗務部主催の国内外のワークキャンプ、リトリート、聖書研 究、さらに先生方や学生によって行われる勉強会や讃美集会のサポートを行う。こうしたキ リスト教に触れる機会の提供以外に、ICU教会としても活動している。

Overview of the Religious Center

- Location: the first floor of Diffendorfer Memorial Hall East Wing
- People: two pastors and two staff members

Holding the university service (Chapel Hour), Christianity Week in May every year, and the special services including the Christmas Candlelight Service as well as Work Camps in Japan and abroad, Retreat and bible studies hosted by the center, and supporting study groups and worship meetings held by faculty members and students. In addition to offering these opportunities to come in contact with Christianity, it offers various activities on campus while also serving as the ICU Church.

2018年度 学長主催 「入学25周年・50周年記念祝賀会」 開催の お知らせ

入学より25年、50年を迎える同窓生を対象とする学長主 催「入学25周年・50周年記 念祝賀会」が2018年度も開催されます。2018年度は41期(1993年入学)、16期 (1968 年入学)の同窓生が対象です。当日は、礼拝堂で 記念礼拝を執り行った後、学食で懇親会 が開催されます。対象となる同窓生の皆様には、1月末に学報「The ICU」をお送りして いるご住所宛に招待状をお送りしております。大学および同窓会が連絡先を承知していな い同窓生の皆様のため、招待状、または学報が届いていないご友人が周りにいらっしゃい ましたら、ぜひ本学ウェブサイトより住所変更申請を行っていただきますようお声掛けく ださい。

住所変更の申請:

https://goo.gl/rL4xTr



Coming up: 25th and 50th Matriculation **Anniversary Celebrations, 2018,** hosted by the President.

The Celebration for the 25th and 50th Anniversaries of Matriculation hosted by the President will be held for alumni who are welcoming their 25th or 50th matriculation anniversary in 2018. Alumni who matriculated in 1968 or 1993 will be invited.

On the day of the celebration, a commemorative service will be held at University Chapel. Afterward, a reception will be held at University Dining Hall. Invitations were sent at the end of January to the address to which "The ICU" is sent.

If you know any alumni who are not receiving the invitation or "The ICU," please ask them to report their current address from the webpage below.

"Change of Address" form:

https://goo.gl/rL4xTr



Day: April 21, 2018 (Sat.)

Invitees: Alumni who will be celebrating their 50th anniversary since matriculation (i.e., those who were matriculated in 1968) and alumni who will be celebrating their 25th anniversary since matriculation (i.e., those who were matriculated in 1993)

開催日:2018年4月21日(土)

対象者:入学50周年...16期(1968年入学)

入学25周年...41期(1993年入学)

From The Alumni House

アラムナイハウスから

10期会報告

文:白石隼男(10)、小高正光(10)



2017年10月3日(火) 良く晴れた初秋の午 後3時間、アラムナイハウスで10期会を楽しく 持ちました。会の最初にこれまで同期の集いの 実務を担ってきた故古村浩三さんほか同期物故 者25名のお名前を読み上げ、参加者それぞれ、 友人のことを心の内に覚えて、祈りを合わせま した。

25名が出席。卒業後ずっと米国及びカナダ に住み一時帰国の機会に初めて同窓会に出席の 原田(紙谷) ふみ子さんや、卒業後キャンパス を訪れるのは2回目の荒木能得さん、また、た またまタイからICUのアジア文化研究所で講演 のため帰国された浅井重郎さんの出席があり、 皆で再会を喜び合いました。10名くらいの方 に在学中の(アルバイト漬けの日々や英語学習 の苦労の) こと、卒業後の充実した研究や仕事 のこと、避けて通れない病気のことなど、多岐 にわたる打ち明け話をして頂き、大きな感銘を

開会連絡の補助や会場利用などで同窓会事務 局のご協力を頂いたこと、また参加者からのワ イン等の差し入れに感謝します。同期会終了後、 11名で三鷹駅近くの和食店『鈴の音』に寄り、 楽しかった学生生活や苦楽こもごもの社会生活 などについてわいわいがやがや9時近く迄盛り 上がりました。また今後も同期会を一年に一回 は持とうということになりました。

22期卒業40周年リユニオンと 記念募金のお知らせ

文: 讃井暢子 (22 ID78)

22期(ID78) (Sept.の方はID77も) の皆様、 2018年に卒業40周年を迎えるにあたり、リユ ニオンを企画しています。多くの仲間と過ごし た懐かしい大学に再び集い、思い出話に花を咲 かせ、友情を確かめ合いませんか。22期の皆様、 奮ってご参加ください。

日時: 2018年6月16日(土) 10:30~14:30

場所:ICU大学食堂 Aエリア

また、私達がICUで受けた恩恵を次世代に引

き継ぐという趣旨で、奨学金のための募金活動 を行っています。18年6月までに400万円の募 金を集め、ICU Peace Bell奨学金に22期奨学 金(仮称) と冠名を付けて寄付することを目標 としています。一人でも多くの方のご協力を得 て、皆様のICUへの思いを実りあるものにして いきたいと考えています。是非この輪に加わっ てください。

詳細についてのお問い合わせは、22期リユ ニオン実行委員会代表 尾崎正明 higenosu ke@gmail.com、青木正彦 fwnk8662@mb. infoweb.ne.jp または各セクションの幹事宛 にお願いいたします。

26期(ID82)同期会報告



卒業35周年を記念して、ID82を中心とする 同期会が2017年9月2日土曜日に開催されまし た。素晴らしいお天気の下、約100名の仲間が 集まり旧交を温めました。キャンパスツアー、 1、2、3次会までお疲れさまでした。同期有志 協賛による豪華賞品(1等お掃除ロボット等) の当たる抽選会なども盛り上がりました。これ を機会に同期会開催マニュアルを整備しました。

ID83±335周年 リユニオンをします!



今年は卒業35周年にあたるのを機に、以下 の通りリユニオンを開催いたします。多数の皆 様のご参加をお待ちしております。なお、前後 3学年や関係の深い方々もウェルカムです。

対象:ID83±3のみなさん、当時在学してい た大学院生、研究生、OYR、教員等、ID83に 関係の深い方

日時:2018年4月22日(日)

14:00-16:00 (開場13:30)

場所:ICU大学食堂

会費:5000円(当日現金払いなら6000円)

キャンパスツアー: 13:00 食堂前集合

二次会: 16:30-18:30 @アラムナイハウス(会 費は上記5000円に含まれます)

申し込み:原則Peatixでお願いします(前払い) 〆切:2018年3月31日

URL: https://reunion83.peatix.com

連絡をいただいてもPeatixで支払わない限 り出席扱いになりませんのでご注意ください。 Peatixがどうしても使えないという方は例外 扱いになりますので icu83reunion@yahoo. co.jp(担当:斉藤和久) まで直接ご連絡くだ

ID80(24期) 近辺還暦記念 リユニオン開催の報告

さい。代表幹事:鎌田博光



2017年は、24期牛のほとんどすべてが環暦 を迎える年でした。この機会に改めて旧知を温 める企画をと、有志数名が計画を練り始めたの は春先のこと。そこから9か月もの準備期間を 経て、「あら!還暦? ID80±Xリユニオン」が

リユニオン当日、12月2日(土) は、初冬の 好天に恵まれ、想定外、予想を超える130名の 同窓生、関係者の皆さんにご参加いただきまし た。同窓会名簿でハガキを送ることのできた皆 さんの人数は260名。ロコミのご案内も行って いましたが、よもや名簿の半数に及ぶ皆さんに お出でいただけるとは。参加された皆さんいず れも写真のとおり、終始満面の笑顔でした。

食堂での楽しいひと時に続き、アラムナイハ ウスで二次会。その後、いくつものグループが、 それぞれにキャッチアップの宴を近隣で行って いたとのこと。連絡先を交換する場面もそここ こで見受けられ、リユニオンがこれからの再会 のきっかけになっていたようです。

タイ支部会報告





2017年10月28日と11月19日に、築地直送 天然物の海の幸が充実しており、旬の素材をつ かった鮨、料理を味わえるスクンビット・ソイ 31の『鮨凛』さんで、バンコク支部の交流会を 開催致しました。皆、日本人すし職人のオーナ ーさんが握るおいしい鮨に舌鼓を打ちながら、 タイ支部メンバーと楽しいひと時を過ごすこと

タイ国では、在留邦人数が世界でも第4位の 7万3千人を超えていますが、ここタイ支部は、 いつも10人前後のアットホームな雰囲気で、 交流会を開催しています。大学のIDで言うと、 80台から10台まで幅広く、在籍しています。

開催は不定期ですが、いつでもメンバーを墓 集中です。ICUに縁のある方で、バンコクに在 住中または、そのような方をご紹介頂ける方は、 下記メールまで、ご連絡をお待ちしています。 連絡先: thailand-chapter@icualumni.com

テニス部OBOG会 リユニオン報告



2017年11月26日、さわやかな秋の陽射しに 輝く鮮やかな紅葉の大学食堂にてテニス部 OBOG会リユニオンを開催いたしました。

OBOG1期から61期まで56名と現役21名の 計77名でのリユニオン。

同窓会支部発足の報告、今後、毎年この時期 にリユニオンと支部総会を開催する提案をして

自然と遊ぶ、仲間と遊ぶ世界中にただち

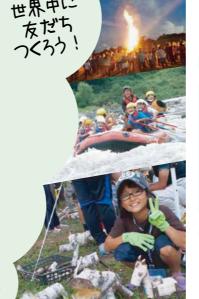
小学生~大学生年代を中心に、多言語・多世代の人々が 自然の中で活動し、国や文化の違いをこえて友情を育む プログラムです。

【国内キャンプ】(3泊4日・長野・小4~大人)

- ●雪の学校:雪の活動と多世代・多言語交流。
- ●Nature Camp: 夏山体験と多世代・多言語交流。

【海外キャンプ】(1週間前後・8月開催)

- ●アジア青少年多言語自然キャンプ&ホームステイ
- 中1~大人。タイでの自然体験と現地家庭でのホームステイ。
- ●アジア青年多言語合宿&ホームステイ
- 高1~大人。上海の研修施設での合宿と現地家庭でのホームステイ。



Multilingual Natural Immersion どんなことばにも開かれた心を育るるのでいる。





多言語を学ぶ意味

大和田康之 (国際基督教大学) 期生)

私がこれからを担う真のリーダーシップについて 必要だと思うのは「多言語を話す」というスタン

スです。多言語を話すということは、「違ったことば、価値 観を持った人を自分の中に受け入れる」ということです。 それは自分が人間としてより豊かになることです。ヒッポで はまず相手の言語を大切にしようというスタンスで手言語を 学んでいます。そんな世界がひろがっていくことに、ことば を学ぶことの本質的な意味があるのではないでしょうか。

● お問い合わせは、下記フリーダイヤルまたはホームページから

言語交流研究所 ヒッポファミリークラブ 00120-557-761

皆さんの賛同をいただきました。

今後、現役と協力して、OBOGへのインタ ビューを行い、テニス部史の編纂も進めたいと 思います。

2018年度は、2018年11月25日(日) 11:00 ~ 15:00 食堂Aにて開催する予定です。

パリ駅伝報告

文:小川陽子 (37 ID93)





2017年11月5日、第5回パリ駅伝大会※に 「Equipe JJogging ICU」として参加しまし た。と言っても、ICU卒はチーム6人中3名。 JJogging Club(パリを拠点とした日本人市 民ランナーの会)から生え抜きの3名を「お借 り」して無事チーム結成となりました。なんと、 Equipe ICUはJJogging Club全7チームの 中で一位、パリ駅伝全体(完走組1,377チー ム) では612位という好成績(?) を収める事 ができました! JJogging Clubの強豪メンバ - 3名はもとより、初出場ながら大健闘の岡史 子(43 ID99) や、連絡係の小川陽子(37 ID93)、アンカーとして猛スパートでチームを 勝利に導いたマリオンめぐみ(33 ID89) らが、 「タスキ」をスムーズにつなぎ全体として良い 結果を出すことが出来ました。来年のパリ駅伝 参加希望者は小川まで。

※フルマラソン(42.195キロ)を6人のチー ムで区間を分けリレー形式で走る大会。例年 11月の第1日曜日にパリ市内で実施される。今 年は1,400近くのチームが参加。

玄徳会(空手道部OBOG会) 総会報告



第43回空手道部OB会総会が2017年11月3 日に品川プリンスホテルで開催され、1期から 37期までが集まりました。

OB会総会は1975年に第一回が開催され、1 期生の枡本緝郎氏が会長となり、玄徳会と命名 しました。以来現役の活動に資することを目的 の1つとし、稽古や合宿に参加しています。

ICU空手道部は枡本氏の創部以来、60有余 年の歴史があります。毎年留学生も含め、少人 数ではありますが、部員が稽古に励み今日に至 っています。歴代の師範に恵まれ、日本空手協 会主席師範や全国大会で優勝経験のある指導員 が指導をしています。現在の師範は世界各地で も指導をしている日本空手協会七段位の椎名勝 利指導員です。

現役部員は稽古の時間も少なく、試合に出場 することも難しい現状ですが、OBOGの中に は道場の指導者もおり、還暦を超えてなお試合 に出る者もいます。2018年は枡本会長が米寿 を迎えます。我々も会長に倣い精進を重ねたい と思っています。

香川支部会報告

文: 浜崎直哉 (37 ID93)



2017年8月21日(月) 高松市内の割烹「游| にて、香川支部 平田オリザさんを囲む会を開 催いたしました。

この会は、香川支部会長である、四国学院大 学の末吉学長(16) の発案で、四国学院大学客 員教授の平田オリザ氏(32 ID88) と、香川支 部のメンバーとの交流を図りたい趣旨で企画さ れました。当日は、香川支部メンバー7名と、 香川に帰省していた2名の卒業生も参加し、和 やかな雰囲気の中で、会は進みました。

平田オリザさんには、香川支部の名誉会員に なっていただくお願いを快諾していただき、今 後も香川支部は会員相互の交流を図るために頑 張って活動を続けていこうと思います。

第23回ICU心理臨床家の集い ICUの心理臨床家養成を振り返る ~涵養の場としてのICU~



第23回ICU心理臨床家の集いは、2017年3 月5日にアラムナイハウスで行われ、1972年 修了生から2016年修了生までの29名が参加し ました。

2016年3月でICU大学院の臨床心理学専修 が終わり、2017年3月末には多くの大学院生 を鍛え育ててきた高等臨床心理学研究所と付属 心理相談室が閉所しました。今年の「集い」の 企画では、「ICUの心理臨床家養成を振り返る ─涵養の場としてのICU─」と題して、ICUに おける心理臨床家養成の歴史を、臨床心理士養 成指定大学院(以下、指定大学院) 設立を基点 に四つに分け、各時代を体験した方々に、卒業 生の立場からその時のシステムや逸話、現在の 臨床への影響について振り返っていただきまし た。指定大学院以前の養成・教育について山中 淑江さん(28 ID84)、2003年の指定大学院設 立の前後について設樂友崇さん(43 ID99)、臨 床心理専修が文科省の「魅力ある大学院教育イ ニシアティブ」に選ばれた時期について揖斐衣 海さん(G2006)、最近の修了生から岡本美穂 さん(G2015) が語ってくれました。会長の川 瀬正裕さん(23 ID79) のまとめのコメントを 皮切りに、会場からも率直な発言が続きました。 ICUという場所に積み重なっている時間の中

で、それぞれが所属した時代が歴史の一部とし て相対化されていくようでした。同時に、それ ぞれの経験における固有な体験も、ゆっくりと 浮上しているように感じられました。

それぞれの時代のシステムには、その時に為 された意味があり、固有のダイナミクスがあり ます。その中での個人の体験もまた固有なもの であり、尊重されるものです。私たちには、 「あの時に教わったことは何だったのか」とい うことを、捉え直すことができる場が必要です。

各界で活躍する修了生にとって、今後もこの 会が、ICUでの教育・訓練を振り返り、ICUに よって涵養されたものを、自分の中に確かめる 場所であり続けることを願っています。

徳島・香川支部交流会報告



2017年9月2日(土) 高松市内のアイリッシ ュパブ クラックにて、ICU同窓会 徳島支 部・香川支部の交流会を開催いたしました。

香川支部を設立した当初から、隣県である 徳島とは交流していきたいという思いがあり、 早々に徳島支部の木村支部長と連絡を取り、4 月より準備を進めてきました。

今回は5期から57期までの、香川在住の卒業 生11名と、徳島支部より木村支部長(29 ID85) はじめ3名のご出席、そして東京より木 越同窓会長(27 ID83) と平井雅子さん(32 ID88)。総勢16名の出席となりました。

冒頭に香川支部浜崎支部長より、歓迎のあ いさつを行い、木越同窓会長よりご挨拶をいた だき、徳島支部木村支部長による乾杯の発声で 和やかに会はスタートしました。アイリッシュ パブの美味しいビールを楽しみながら、自己紹 介が終わるころにはすっかり打ち解け、末吉会 長(16) の締めの挨拶まで、賑やかな会となり ました。隣県でどちらも小さな支部である、徳 島支部とは今後も交流を続けていきたいと思い ます。また、香川支部では、香川を離れた卒業 生や、県外に住んでいるけれども、今後帰る可 能性があるので、連絡は続けてほしいという卒 業生のために、県外会員という枠組みを設けて、 交流を広げていこうと考えています。

「ICUを考える会」 開催報告

文:安楽由紀子(本誌)

2017年9月16日(土)、星稜会館(東京・千 代田区)で「ICUを考える会」が開催されまし た。変化の激しい時代、ICUのこれからの100 年を導く理念、ミッションを確認しようという 目的のもと、さまざまな年代、経歴の同窓生や 大学関係者30人以上が参加。それぞれが抱い ているICUへの思いを語り合いました。「ICU を考える会」に関心のある方は三宅一男さん (8) のメールアドレスepic-miyake@amail. plala.or.jpにお申し込みすれば発言録をお送 りくださるそうです。

Bell Peppers ICUハンドベル クラブ同窓会報告



2017年9月24日、3年振りにBell Peppers ICUハンドベルクラブ同窓会を開催致しました。 前週に来ていた台風は無事に過ぎ去り、総勢 74名が大学食堂に集まりました。

まず現役生には近況報告を兼ねて3曲演奏し て頂き、会場は卒業生からの温かい拍手に包ま れました。その後は食事と歓談を挟みつつ、か つて演奏した曲を皆で演奏する恒例の企画です。 年代問わず混ざり合い、久しぶりにハンドベル に触れて楽譜にかじりつく姿からは、楽しんで いる様子が窺えました。

最後に、当時在学していた卒業生を中心に、 ID87の仲手川豊さん作曲のBell Peppersのた めの組曲「どうぶつえんにいったら」より2曲 を31年振りに再演しました。今後の同窓会で

もこの曲を、Bell Peppersの大事な財産とし て演奏できたらと思います。

たくさんの卒業生に参加頂き、また残念なが ら欠席だった方からもご支援を頂き、楽しいひ と時となりました。これからも数年おきの開催 を目指します。

トロント ミニ同窓会報告



2017年11月22日トロントの日本料理店にて、 2017年度DAY賞受賞者 中島和子トロント大学 名誉教授(3) を囲んでミニ I CU同窓会を開催 しました。出席者は中島武秀(9)・和子御夫妻 をはじめ総勢7名、和気あいあいの冬のさむ-いカナダでのあたたかーい集まりでした。

留学生のホストファミリーを 募集しています!

国際基督教大学では、毎年、7月から8月 にかけて、100名強の留学生を迎えて、夏期 日本語教育を開催しています。そのうちの 10名程度が近隣でのホームステイを希望し ています。期間は6週間です。

条件:学生用の個室と食事(朝夕2食)の 提供、通学時間1時間以内

受け入れ期間:2018年7月以降~6週間 (延長の可能性あり)

【お申込み・お問い合わせ】

株式会社ネクステージ

ホームステイインジャパン

TEL: 03-3866-0139

(平日10:00~19:00/祝休)

support@homestay-in-japan.com

寄付者御芳名 Donors

山岡清二(6)

齋藤顕一(17)

ファミリーカイロプラクティック三鷹院

永田竹司牧師説教集刊行会

故内藤康子(鶴留素子(30 ID86)御母堂様) (アラムナイラウンジにピアノ1台をご寄贈) 貴重なご寄付を賜り、誠にありがとうございます。

たずね人 Missing

池田英人(35 ID91)

深見淳 (43 ID99)

田中智己(49 ID05)

古川真宏 (53 ID09)

金ボラム (55 ID11)

澤坂しおり(56 ID12)

市村脩一郎(57 ID13)

動静をご存知の方は事務局までご一報ください

訃報 Obituary

石丸友里 ICU上級准教授

近藤健(1)

藤沢皖(1)

鵜飼直道(2 中退会員)

ALTMAN 由紀子(8)

佐藤秀隆(8)

秦靖枝(9)

清水昭雄(11)

堀口秀嗣(13)

久保祥子(15)

土屋澄子(23 ID79)

鈴木一作(25 ID81) 小野里美佳(57 ID13)

心よりお悔やみ申し上げます。

AN127号掲載の椎葉敒子様(特別会員) のお名前 に誤りがございました。訂正してお詫びいたします。

7_Goods

同窓会グッズを紹介

文・写真: 同窓会事務局

ICUてぬぐい

「注染」という江戸時代に始まった手法で作られた手拭いです。端が切りっぱなしで、汚れやほこりがたまらず、乾きも早く衛生的。簡単に手で裂くことができるので、いざという時の応急処置にも使えます。通気性と吸水性に優れているため、鉢巻き・ターバン・バンダナなど頭や首に巻くのはもちろん、

キッチンクロスやランチョンマットに、またお弁当や ペットボトルを包んだりといろいろな使い方ができま す。

この「ICUでぬぐい」 はキャンパスマップになっていますので、皆さんで思い出の場所を探してみてください。



綿100% 34cm×90cm 価格1200円 同窓会事務局の岡田路子さんのデザインです。

使い方 いろいろ!



ライト付きルーペ

ICU ALUMNI ASSOCIATIONの文字と同窓会ロゴが印字された、ライト付きのルーペ。合皮製のケース付で、ケース込みで50グラムと軽量、持ち運びにも便利です。

いつでも

どこでも!

5.7cm×9cm 価格1000円

同窓会グッズのご購入方法

商品名、個数、色、サイズ、送付先などを記載の上、ICU同窓会事務局 (aaoffice@icualumni.com) までお申込みください。折り返し、事務局 から振込先、金額をお知らせし、入金確認後、商品を発送させていただきます。

- ●ICU同窓会事務局 TEL&FAX 0422-33-3320
- ※価格は税込みです
- ※送料については、大きさ、重さによって異なりますので、同窓会事務局にお問い合わせください。 ※写真は、実際の会はが思わる場合もございます。
- ※写真と、実際の色味が異なる場合もございます。
- ※品切れの際はご容赦ください。
- ※学内では、三省堂書店、および、アラムナイハウス2階の同窓会事務局でも購入できます。

同窓会 支部紹介



支部名:山と自然を楽しむ会(山楽会)支部

文: 齋藤勝義 (13)

旧山岳部を母体にして2005年に設立 (再スタート)。会員は1期から23 期生のOBOGの約80人。毎年総会・懇親会を開催、この2月で14回を迎えます。

春秋には奥多摩や丹沢方面に定例山 行。毎月、近郊の山へのハイキングと、 町中歩きや川沿いの歴史を訪ねてのウォーキングを実施。会員推奨のおらが自慢の街と自然の散策や、山小屋泊のアルプス登山も。年会誌「万年雪」を発行。健康で安全に、そして良き仲間とともに、をモットーに活動しております。



支部名:九州·山口支部

文:山口実(17)

設立から約25年、会員は約200人。 毎年春秋2回、福岡市内で開催しております。小ぶりとは言え、出席者は多 士済々で、和気藹々と楽しく開催しております。

時にはミニコンサート、博物館や環境問題や国際政治など、専門家による

講話などあり、知的好奇心を満たす支部会です。出席の皆さんの近況報告を同うだけでも、encouragingな会です。 2~3年に1回程度、ICUや同窓会関係者の皆さんが来福くださる機会を捉えて開催し、懇親を深めております。 ICU同窓会事務局にお問い合わせの上、contactいただければ幸甚です。



吉住歯科矯正クリニック

お問い合わせ・ご相談、初回無料カウンセリングのご予約

****0422-48-3365

1976 年に吉祥寺で初めての矯正専門クリニックとして開業し、4000人を超える患者さまの笑顔に携わってきましたが、2016 年に大規模リニューアルを行い、予防歯科と一般歯科も行うことになりました。キレイな歯ならびを軸にお口全体の予防管理をする、日本では新しいタイプのクリニックです。院長はICU卒業後、歯科大学に入り直し歯科医師となり、日本矯正歯科学会の認定医を取得。今ではたくさんの ICU 生に通っていただいております。国際社会で活躍する上では「キレイな歯ならび」は必須条件ともいえます。欧米では「キレイな歯ならび」が社会的ステータスであるとも言われていますが、当クリニックでは見た目だけでなく、正しい機能的な噛み合わせを目標にしています。機能的な噛み合わせは、日常生活において食事が食べやすくなったり喋りやすくなるばかりでなく、むし歯は歯周病の予防にもなり、結果として審美性や QOL (Quality of Life) の向上につながります。

「キレイな歯ならび」で、これから国際社会で活躍するであろう ICU 生ならびにそのご家族の一助になれれば光栄です。歯ならびや歯のお悩みは是非当クリニックにご相談ください!(むし歯や検診のご予約も承っております)



東京歯科大学歯学部卒業 同大学病院臨床研修課程修了 同大学病院臨周病学講座卒後 研修課程修了 日本歯周病学会認定医



院長 古住 淳 国際基督教大学教養学部卒業 (人文科学科、04セプテン) 東京歯科大学歯学部卒業 同大学歯科矯正学講座卒後 研修課程修了 日本矯正歯科学会認定医

|診療科目

歯科、小児歯科、矯正歯科、歯科口腔外科

|診療時間

月·火·金:11:00~14:00、15:30~20:00 水·士·祝:10:00~13:00、14:30~19:00

平日夜 8 時まで、 土日祝日も診療してます

吉住歯科

検索

桜祭りのご案内

ICU桜祭りで会いましょう! Let's Get Together at ICU SAKURA Festival

今年も春の訪れとともに、同窓会「桜祭 り」を開催します。

業50周年記念式典、懇親会など、年に1 度の同窓会総合イベントです。今年の卒業 招きします。

に桜咲くキャンパスに足をお運びになり、 けの上、ご参加をお願い申し上げます。

当日は、同窓生が南アフリカで作るICU ワイン「武蔵野クロス」や、同じく同窓生 今回で13回目を迎える同窓会「桜祭り」 の蔵元が作る日本酒「ばか山」をはじめ、 は、同窓会年次総会、DAY賞表彰式、卒新作の楽しいICUグッズも多数、用意して おります。

DAY (Distinguished Alumni of the 50周年記念式典には12期生の皆さまをお Year) 賞は、ICUに在籍したことのある人 (卒業生・留学生・旧教職員を含む) の中 たくさんの同窓生の皆さまが、この機会 から、大学、および、同窓会の知名度・魅 力を高めることに貢献した方に対し、その 懐かしい方々との旧交を温めてくださいま
功績を称えるため毎年授与されるもので、 すように。お知り合いの同窓生にもお声か 今年は3人の卒業生に授与されることにな りました。

2018 年 ICU 桜祭り

開催日:2018年3月24日(土) 場所:ICUキャンパス内

総会・DAY賞表彰式・12期生の卒業50周年記念式典(大学礼拝堂)

10:00開場 10:30開始 12:30 終了予定 懇親会 (ダイアログハウス内、大学食堂)

12:50 開始 14:00 終了予定

参加費:4000円(卒業生)、1000円(在学生)

☆2017年夏、2018年春卒業の皆さまは「無料招待」とさせていただきます。

今年も土曜日に開催 3月24日

総会・懇親会出欠のご連絡を、以下、いずれかの方法で2018年3月14日(水)までに、お願いします。

・インターネット送信

同窓会Webサイトhttp://www.icualumni.com/?p=5585 からご登録いただけます。

携帯電話・スマートフォンの場合はQRコードからもご利用いただけます。一

- ・電子メール aaoffice@icualumni.com
- ・ファックス/電話 0422-33-3320
- ・右の返信用はがき

(はさみで切り取り、はがきに貼ってご利用ください。 3月14日 消印有効)

はがきの宛先:〒181-8585 三鷹市大沢3-10-2 ICU同窓会事務局

このはがきを切り取ってFAXで送ることもできます。

- 1月に別途郵送済みのご招待状の返信はがきをご利用ください。

なお、同窓会正会員の方で、総会資料を事前に入手されたい方は、同窓会事務局からご登録の送付先住所に郵送いたします。 上記の問い合わせ先までご連絡ください。



2018 年度 DAY 賞受賞者

菊池明郎

KIKUCHI, Akio (14)

1971年筑摩書房に入社。1978年に会社 更生法を申請した筑摩書房の再スタート 時から、営業分野での大胆な社内改革を 進め再建に尽力。若手編集者たちと協力 して「ちくま文庫」「ちくま新書」「ちく ま学芸文庫 などをスタートさせた。 1999年社長に就任。筑摩書房初のミリ オンセラー『金持ち父さん 貧乏父さん』 や、ミリオンセラー 2冊目の『思考の整 理学」などユニークな本を出版。

鵜浦真紗子

UNOURA, Masako (22 ID78) 2011年帰省中に宮城県気仙沼で東日本

大震災に遭遇し、奇跡的に屋根の上で九 死に一生を得る。数日後からボランティ アとして大船渡市役所や消防署と連携し てオランダからの民間救援隊の通訳を務 め、現地で大船渡サポートネットワーク センターを立ち上げ、被災者への物資供 給支援活動を行う。帰国後ロサンゼルス でIOVETONIPPONPROJECTを設立 し、国際交流や活動を継続している。

青木重人 AOKI, Shigeto (33 ID89)

上海勤務の中で、ゴルフを通じて良好な ビジネス環境を作りながら社会人ゴルフ で活躍している。1996年全日本ヤング ビジネスマンカップ個人・団体戦優勝。 シンガポールアイランドカントリークラ

卒業後三井不動産に入社。シンガポール・

ブチャンピョン。日経カップ企業対抗選 手権で2012年、2015年、2017年に個人 優勝を果たし、2015年から2017年の同 大会団体戦で3連覇。



2018 年桜祭り 同窓会総会・懇親会

お願い:同窓生の方は一人一枚お出しください

*総会(於:礼拝堂)に ご出席 ・ ご欠席 ご欠席の正会員(卒業生)のかたは以下ご確認ください。

氏(空欄の場合は議長に委任とさせていただきます。

議決権は

同窓生以外の同伴者の数

*懇親会(於:大学食堂)に ご出席 ・ ご欠席

ご住所

名

(#B)

期)に委任します。



事務局からのお知らせ

★ 広告募集!

本誌では広告を募集しています。フルサ イズ6万円、ハーフサイズ3万円で承っ ております。ご興味のある方は、詳細を 事務局までお問合せください

★ 原稿をお寄せください!

期会、リユニオンなどの案内・報告をお 寄せください。本誌および Web サイト に掲載いたします。

★住所変更について

住所・勤務先・氏名の変更の際はメール (aaoffice@icualumni.com) または同窓 会のWebサイトの住所変更から、ご一 報ください。地方・海外にご転勤の際に は支部をご紹介いたします。同窓会事務 局までお問合せください。 携帯の方はこ ちらからどうぞ:



★ ご協力をお願いします

大学の宣伝=大学への支援という考え方 から、同窓生の著作、雑誌インタビュー などには、略歴欄に「国際基督教大学卒 業」とお入れいただけますよう、お願い 申し上げます。

■大学・同窓会に関する情報が満載です。

ぜひ一度ご覧ください。

同窓会ホームページ

http://www.icualumni.com/

大学ホームページ http://www.icu.ac.jp/ JICUF ホームページ http://www.jicuf.org/

■ ICU 同窓会事務局

〒 181-8585 東京都三鷹市大沢 3-10-2

TEL&FAX: 0422-33-3320 Email: aaoffice@icualumni.com

■ 同窓会広報部(ALUMNI NEWS 編集部)

Email: kohou@icualumni.com

同窓生向けメールサービス 「@alm.icu.ac.jp」のご案内

2015年度から、大学では学生・教職員 のコミュニケーションツールとしてGmail (@icu.ac.jp) が採用され、卒業する際に 卒業生全員にアドレス(@alm.icu. ac.jp)が提供されるようになりました。 2014年度以前の卒業生もこの卒業生用ア ドレス(@alm.icu.ac.jp) を無料でご利 用いただけます。

卒業生用のドメインは@alm.icu.ac.jp。 大学などの高等教育機関向けであるac.jp のサブドメインです。是非ご利用下さい。 詳しくは、以下で。

http://www.icualumni.com/ mailservice/

福利厚生プログラム ICU同窓会WELBOXのご案内

同窓会では、株式会社イーウェルが運 営する「WELBOX」という福利厚生プロ グラムを導入しています。会員制リゾート ホテル・ハーベストが利用できるほか、国 内宿泊のお得なプラン、映画や東急ハンズ の割引、ヘルスケア、保育サービスなど、 多様な優待プログラムが準備されており、 同窓会員本人だけでなく、兄弟姉妹や子、 孫、祖父母まで利用することができます(2 親等以内の家族)。

なお、終身会費をお納めいただいてい ない方はWELBOXのご利用登録ができま せん。ご不明な点は、同窓会事務局までお 問い合わせください。詳しくは、以下で。

http://www.icualumni.com/ about/welbox.html

DAY賞候補者をご推薦ください ——

際基督教大学に在籍したことのある方(卒業生・留学生・ 教職員。ただし故人は対象外)の中から、大学、および、 薦をお待ち申し上げております。

Distinguished Alumni of the Year (DAY) 賞は、国 同窓会の知名度・魅力を高めることに貢献した方に対し、 その功績を称えるために贈呈されます。皆さまからのご推

- ※自薦・他薦を問いません。
- ※推薦および選考については公開されません。
- ※推薦は年間を通して受け付けておりますが、毎年10月15日受け付け分までを選考対象として 翌年の桜祭りで受賞者を表彰します。
- ※受賞者は同窓会Webサイトで発表するとともに、アラムナイニュースでお知らせいたします。
- ※推薦方法

WebサイトのDAY Awardより「DAY賞候補者をご推薦ください」をダウンロードし、必要事項をご記入の上、 ICU同窓会事務局あてに郵送/FaxまたはEmailでお送りください。

※必要事項

- ・推薦したい方の氏名と卒業年、あるいは在籍年(分かる範囲で)
- ・推薦理由(新聞記事などの客観的資料があれば併せてお送りください)
- ・あなた(推薦者) の氏名と卒業年
- ・あなた(推薦者)の住所・電話番号・Emailアドレス
- ※歴代受賞者名は、同窓会Webサイトに掲載しております。

ICU同窓会事務局

〒181-8585東京都三鷹市大沢3-10-2

Tel/Fax: 0422-33-3320 Email: aaoffice@icualumni.com

FDITOR IN CHIFF

STAFF

神内一郎 JINNAI, Ichiro (33 ID89/G1992)

MANAGING EDITOR

安楽由紀子 ANRAKU, Yukiko (40 ID96)

EDITORS

鈴木 律 SUZUKI, Ritsu (23 ID79) MOCHIZUKI, Atsushi (26 ID82) 望月厚志 新村敏雄 SHINMURA, Toshio (27 ID83) 小熊由美子 OGUMA, Yumiko (33 ID89) 樺島榮一郎 KABASHIMA, Eiichiro (37 ID93/G1997)

KOBAYASHI, Tomoyo (52 ID08) 小林智世 加藤菜穂 KATO, Naho (53 ID09) 水野愛子 MIZUNO, Aiko (62 ID18) TAKIZAWA, Takahiro (62 ID18) 滝沢貴大

PHOTOGRAPHER

宮森 洸 MIYAMORI Koh (59 ID15)

ART DIRECTOR

佐野久美子 SANO, Kumiko (44 ID00)

PRINTING DIRECTOR

SAKAI, Takeshi(小宮山印刷) 坂井 健

EXECTIVE DIRECTOR

松島眞理 MATSUSHIMA, Mari (36 ID92)

PUBLISHER

KIGOSHI, Jun (27 ID83) 木越 純

ご意見・ご感想をお気軽に

アラムナイニュースは、同窓生のみなさまの ために制作しているものです。今後の制作の参 考にしますので、ご意見・ご感想、企画や人物 の紹介などがある方は、メールにてお気軽に事 務局までお知らせください。

アラムナイニュース編集部員募集

あなたの経験をANに生かしてみませんか? 企画、取材、執筆、撮影、編集進行などを一緒 にやっていただける方を大募集中です。もちろ ん未経験でも可。最初は一緒に取材などを行い ながら編集のプロから直接技術を学べますし、 3年ぐらいやれば、一通り編集の基本が身に付 きます。もちろん、現役の学生さんも大歓迎で す。興味のある方は、同窓会事務局へメールで ご連絡ください。

aaoffice@icualumni.com

cover photo: Mari Matsushima (36 ID92)

